

1

介護施設におけるBPSD評価尺度の信頼性および有用性の比較 介護職を対象とした横断研究

月井 直哉(認知症介護研究・研修東京センター), 中村 考一, 山口 晴保

老年精神医学雑誌(0915-6305)33巻8号 Page833-845(2022.08)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 専門職間人間関係; 断面研究; *認知症(診断); 分散分析; インタビュー; アルゴリズム; 結果再現性; 保健医療サービスの必要と要求; 介護職; 自己報告式質問調査; *行動心理学的症候(診断)

チェックタグ : ヒト

Abstract : 【目的】 介護施設で5種類のBPSD評価尺度(BPSD+Q、NPI-Q、DBD13、BPSD13Q、NPI-NH)の検者間信頼性と有用性を検討する。【方法】 25施設の介護職員75人と認知症患者50人を対象にした。介護職員は2人の認知症者を5種類の尺度で評価し、有用性に関するアンケートに回答した。検者間信頼性は3人の評価結果を級内相関係数ICC(1、1)で検討した。有用性はそれぞれの尺度の「有用だと思う」割合を記述的に分析した。

【結果】 級内相関係数は高い順に、NPI-NHは0.84、DBD13は0.76、BPSD+Qは0.74、BPSD13Qは0.69、NPI-Qは0.56であった。有用性はすべての質問項目において、各尺度の「有用だと思う」割合が最大50%台であり、突出して優れた尺度はなかった。【結論】 介護職がBPSD評価を行うには、対象者の特性や使用目的に合わせた尺度を選択することが望ましい。(著者抄録)

2022302562



2

前頭葉症状の強い60歳代認知症 医療機関・地域との連携で在宅生活が続いてきた症例

堀口 布美子(老年病研究所附属病院), 高玉 真光, 山口 智晴, 山口 晴保, 前橋市認知症初期集中支援チーム

群馬医学(0285-0656)114号 Page147-150(2021.12)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 家族; *認知症(治療); *チーム医療; 社会的支援; *多機関医療協力システム; *地域社会ネットワーク; *在宅医療

チェックタグ : ヒト; 中年(45~64); 男

Abstract : 症例は60歳代前半男性で、妻と二人暮らしで、家族が前頭葉症状に気付き、医療機関の受診を経て認知症疾患医療センター受診に繋がった。アルツハイマー型認知症の診断でドネペジル投薬を開始し、認知症疾患医療センターから地域包括支援センター(包括)を紹介され、要介護1の認定を受けた。家族支援のために認知症初期集中支援チーム(チーム)が介入を開始し、ドネペジル休薬を提案した。約4カ月間で訪問2回、妻との電話連絡9回、認知症疾患医療センターや包括への連絡12回を実施した。また介入時の主治医と紹介先の精神科医師にはチームからの情報提供書を作成した。その後本人に内科疾患が見つかりチームの介入は終了したが、結局手術は行わず短期間で退院し、その後は自宅で過ごした。精神科病院からの訪問看護を受けながら、定刻の飲酒・大量の喫煙に戻っている

が、精神的には落ち着き、妻との二人暮らしを継続している。

2022150894



3

ADL低下と抗精神病薬投与の関連 認知症グループホーム継続調査から

藤生 大我(認知症介護研究・研修東京センター), 山口 晴保, 宮崎 直人, 中村 考一, 関本 紀美子, 佐々木 薫, 繁澤 正彦

Dementia Japan(1342-646X)35巻2号 Page241-250(2021.04)

論文種類：原著論文/比較研究

シソーラス用語：Alzheimer病(薬物療法); *抗精神病剤(治療的利用,毒性・副作用); 生活の質; *認知症(薬物療法); *日常生活活動; 分散分析; ロジスティックモデル; 時間因子; *グループホーム; Lewy小体病(薬物療法); 認知症-前頭側頭型(薬物療法); Barthel指数

チェックタグ：ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract：認知症グループホーム入居者276名(平均87.1歳)のADL経年変化と抗精神病薬の関連を縦断調査で解析した。Barthel index(BI)について2018・2019年の抗精神病薬投与有無と時間を要因とした反復測定分散分析で有意な交互作用を認め(F=7.32、 $p=.007$)、投与有(50名)で70.3点から57.7点、無で67.4点から61.4点へ有意に低下した。アルツハイマー型認知症191名に限ると交互作用は有意傾向となった(F=3.62、 $p=.06$)。投与有のBI低下オッズ比は2.14(95% CI 1.08 to 4.24、 $p=.03$)であった。以上より、抗精神病薬投与でADL低下量が大きいことを示した。(著者抄録)

2021242262



4

もの盗られ妄想のある症例と家族の橋渡し 前橋市認知症初期集中支援チームの連携

黒沢 一美(訪問看護ステーション結の樹), 山口 智晴, 高玉 真光, 山口 晴保, 前橋市認知症初期集中支援チーム

群馬医学(0285-0656)112号 Page77-82(2020.12)

論文種類：原著論文/症例報告

シソーラス用語：Memantine(治療的利用); *認知症(薬物療法); *妄想; *チーム医療; 介護保険; デイサービス

医中誌フリーキーワード：*被害妄想

チェックタグ：ヒト; 高齢者(65~79); 男

Abstract：もの盗られ妄想があり、認知症の診断・治療を受けていない症例(独居の70歳代男性)に対し、認知症初期集中支援チームが本人の意思を尊重しながら医療や介護サービスの利用勧奨を行った。また、本人の激しい行動化に恐怖を感じ断絶していた介護家族が本人を受け入れられる具体的な関わり方について、段階付けて提案した。その結果、本人同意のもとで認知症専門医療機関の受診、治療、介護保険サービスの導入に至り、在宅生活継続につながった。

2021225424



群馬県内における認知症初期集中支援チームの現状と課題

山口 智晴(群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部), 神山 智子, 高玉 真光, 山口 晴保
群馬医療福祉大学紀要(2187-7092)8号 Page39-47(2020.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : *認知症; *チーム医療; 地域社会ネットワーク; 地方自治体; カンファレンス; 群馬県; 自己報告式質問調査

医中誌フリーキーワード : 家庭訪問

チェックタグ : ヒト

Abstract : 2015年に公表された認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)では、認知症に対する早期診断・早期対応を促進する具体的施策として、認知症の専門職からなるチーム員を地域包括支援センターなどに配置する認知症初期集中支援チーム(支援チーム)の設置促進が掲げられた。今回、群馬県内における2018年度の支援チームの活動実績と課題について、県内35市町村を対象に質問紙調査を行い、29市町村と16設置機関より回答を得た。その結果、約6割の市町村が支援対象者数2名以下で、チーム員会議を定期開催している市町村は約4割、1事例当たりの訪問回数は 5.1 ± 4.0 回であった。行政とチームのいずれも、受診勧奨と本人・家族の不安軽減に効果を感じていたが、7割以上で支援チームの運営において何らかの課題を抱えており、とくに情報共有とフォローアップの場の必要性が挙げられた。

2021223525



介護施設における介護保険主治医意見書に基づいた「認知症困りごと質問票(BPSD+Q)」の有用性 NPI-Q・NPI-NHとの比較

藤生 大我(浴風会認知症介護研究・研修東京センター), 内藤 典子, 滝口 優子, 中村 考一, 山口 晴保

老年精神医学雑誌(0915-6305)31巻4号 Page389-402(2020.04)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; せん妄(病因,診断); *認知症(合併症,診断); 特別養護老人ホーム; 分散分析; 結果再現性; グループホーム; 介護職; *行動心理学的症候(病因,診断)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 介護保険主治医意見書に基づいた認知症の行動・心理症状(BPSD)25項目とせん妄2項目を評価できる「認知症困りごと質問票(BPSD+Q)」の有用性を Neuropsychiatric Inventory-Brief Questionnaire Form(NPI-Q)・Neuropsychiatric Inventory-Nursing Home Version(NPI-NH)と比較検討した。認知症高齢者を対象に、研究Aでは介護施設入居者130人にNPI-QとBPSD+Q、研究Bでは認知症グループホーム入居者444人にNPI-NHとBPSD+Qを複数回行い、最終評価時に介護職員等がBPSD+Qの有用性を回答した。その結果、NPI-Qと比した役立つ程度は「同程度」および「BPSD+Qのほうが役立つ」が多く、有用性と施設種別に有意な関連性はなかった。NPI-NHと比した役立つ程度は、有意な偏りはなかった。また、BPSD+Qは、NPI-Q・NPI-NHとかなり強い正の相関を認め、基準関連妥当性を示した。さらに、高い内の一貫性・検者内信頼性を示した。以上より、BPSD+Qは多くのBPSDを評価でき、NPI-Q・NPI-NHと同程度以上に有用

なことが示唆された。(著者抄録)

2020265154



7

本人・家族の希望に沿った生活を支える認知症初期集中支援チームの活動と地域連携の事例

上山 真美(群馬県立県民健康科学大学), 山口 智晴, 高玉 真光, 山口 晴保, 前橋市認知症初期支援チーム

群馬医学(0285-0656)110号 Page29-32(2019.12)

論文種類：原著論文/事例

シソーラス用語：*在宅介護支援サービス; *認知症; *チーム医療; 訪問リハビリテーション; 介護負担

チェックタグ：ヒト; 高齢者(80~); 男

Abstract：80歳代男性。脳梗塞発症後、家族が付き添い外来受診を継続していた。物忘れが著しくなり、認知症初期集中支援チーム(以下;支援チーム)への依頼があった。依頼経路は、娘が地域包括支援センターを介して依頼した。介護認定は受けていたが、適切なサービスの利用には至らず、認定期限切れになっていた。医療については外来受診により継続しているものの、急な体調不良時の往診が可能な体制は整備されておらず、家族は既往疾患や認知機能の低下に伴う症状に困惑し、患者の生活支援に困難と不安を抱えていると考えられた。支援チームによる介入開始後は、認知機能や行動・心理症状がやや悪化したにもかかわらず家族の介護負担感を軽減することができた。これは支援チームがその機能を発揮し、多職種との協働により患者・家族に合った地域医療やサービスが受けられるよう関わったためと考えられた。

2020213062



8

認知症グループホームにおける地域貢献評価尺度・地域交流評価尺度の信頼性と妥当性

長井 万恵(群馬大学 大学院保健学研究科), 井手野 由季, 林 邦彦, 山口 晴保

認知症ケア研究誌(2433-4995)3巻 Page73-83(2019.12)

論文種類：原著論文

シソーラス用語：因子分析; 回帰分析; コミュニケーション; *認知症; 結果再現性; *グループホーム; *地域社会ネットワーク; 評価基準; デイサービス; 社会参加

医中誌フリーキーワード：外出; 社会関係

チェックタグ：ヒト; 男; 女

Abstract：【目的】認知症グループホームにおける事業所の地域貢献と入居者の地域交流の評価尺度を作成し、信頼性と妥当性を検証することを目的とした。【方法】182事業所の地域貢献と入居者の地域交流への取り組みについて、作成した2つの評価尺度を用いて事業所職員による評価を行った。評価者間の一致性をみる予備調査として、両評価尺度の信頼性を検討した。一致性の検討には、級内相関係数、 κ 係数を算出した。内的一貫性の検討には、Cronbachの α 係数を算出した。【結果】評価者間の一致性をみる予備調査では事業所の地域貢献評価尺度において、級内相関係数は各設問で0.59から0.95と一致性がみられ

た。入居者の地域交流評価尺度において、級内相関係数は0.51から0.95と一貫性がみられた。κ係数においても、同程度の一貫性がみられた。評価尺度の一貫性と構成概念妥当性の検討では両評価尺度におけるCronbachのα係数は良好な内的一貫性を示した。事業所地域貢献評価の因子分析では、認知症行方不明者発見への協力や、地域への出前講座などの、事業所から地域への対外的協力に関連した因子と、地域住民の集まりの場の提供などの、地域への事業所サービスの提供に関連した因子が抽出された。入居者地域交流評価の因子分析では、入居者の自発的な外出による地域交流と入居施設への地域住民の来訪による地域交流、つまりは入居者個人が持つ特性と入居している事業所が持つ特性の2つのマルチレベルの因子が抽出された。【結論】地域貢献・地域交流評価尺度について、評価者間の一貫性がみられ、良好な内的一貫性も示された。構成概念妥当性についても、事業所と入居者の地域への関わりについての評価が可能である(著者抄録)

2020120044 , DOI : 10.24745/jdcr.3.0_73



9

認知症初期集中支援チームによる認知症を有する独居高齢者への服薬管理支援

小山 晶子(群馬大学 大学院保健学研究科), 山口 智晴, 高玉 真光, 山口 晴保, 前橋市認知症初期集中支援チーム

群馬医学(0285-0656)108号 Page51-53(2018.12)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : Alzheimer病(診断); *認知症(診断); チーム医療; ひとり暮らし; *薬物治療管理; 要介護者; 服薬アドヒアランス

医中誌フリーキーワード : 不要医薬品

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 女

Abstract : 70歳代の女性2例で、いずれも認知症を有する独居高齢者であった。今回、認知症初期集中支援チームが服薬管理支援を行った結果、より効果的な服薬治療が可能となった。

2019374757



10

認知症疾患医療センターの相談・鑑別診断実績の経時的検討

中島 智子(老年病研究所附属病院 認知症疾患医療センター), 内田 成香, 甘利 雅邦, 山口 晴保, 池田 将樹, 松本 美江, 野中 和英, 岡本 幸市, 高玉 真光

群馬医学(0285-0656)108号 Page45-49(2018.12)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(診断); *保健医療施設; 鑑別診断; *認知症(診断); 紹介と相談; 認知機能低下(診断)

医中誌フリーキーワード : *認知症疾患医療センター

チェックタグ : ヒト; 男; 女

Abstract : 平成23年4月~平成29年3月までの当院の認知症疾患医療センターの相談件数、鑑別診断結果について検討した。6年間で相談件数は9816件(7538人)で、相談者数は年々増加し、平成28年度には3倍の増加がみられた。相談者数を電話相談と面接相談に分

けると、どの年度も電話相談が多かった。相談内容はどの年度も受診希望が最も多く、次いで病気の相談であった。鑑別診断件数は3716件であり、鑑別診断件数も徐々に増加し、ここ3年間は700件台で推移していた。鑑別診断結果ではMCIが年々増加し、早期発見、早期治療が望まれる。

2019374756



11

認知症患者の客観的QOL評価は、主観的QOLをどのように反映しているのか

竹之下 慎太郎(岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学), 寺田 整司, 山口 晴保, 山田 了士

認知症ケア研究誌(2433-4995)3巻 Page38-44(2019.)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 回帰分析; *生活の質; *認知症(診断); 高齢者評価; 認知機能低下(診断); 健康度自己評価; 認知機能検査; Mini-Mental State; 行動心理学的症候(診断)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】認知症患者を対象とした客観的なquality of life(QOL)評価票は数多く開発されている。ただ、それらの評価票が、認知症患者の主観的QOLを、どのように反映しているのかはほとんど検討されていない。本報告では、客観的QOL評価票として日本で開発されたshort version of quality of lifequestionnaire for dementia(short QOL-D)について、主観的QOLとの関係を検討した。【方法】大学病院の物忘れ外来を受診した患者を対象とした。主観的QOLを評価するWorld HealthOrganization quality of life-BREF 26 questionnaire(WHOQOL-BREF26)を本人が記入し、客観的QOLを評価するshort QOL-Dを介護者が評価した。加えて、患者の年齢、性別、診断が記録され、clinical dementia rating(CDR)、Mini-mental state examination(MMSE)、NeuropsychiatricInventory(NPI)、Functional activities questionnaire(FAQ)が評価された。【結果】正常認知群45人、軽度認知障害群103人、認知症群(CDR0.5または1)105人が対象とされた。回帰分析の結果から、short QOL-Dの全項目の平均得点は、NPI得点・WHOQOL-BREF26全項目の平均得点と有意に関連していた。陽性領域の平均得点はWHOQOL-BREF26全項目の平均得点・NPI得点と、陰性領域の平均得点はNPI得点と関連していた。【結論】客観的QOL評価であるshort QOL-Dのうち、陽性領域は主観的QOLとBehavioral andpsychological symptoms of dementia(BPSD)を反映し、陰性領域はBPSDの中でも本人が自覚しにくい症状(易刺激性、興奮)を反映していた。認知症においては、主観的QOLに加えて、客観的QOLを評価することに積極的な意味があると考えられる。(著者抄録)

2019232061 , DOI : 10.24745/jdcr.3.0_38



12

BPSD予防をめざした「BPSD気づき質問票57項目版(BPSD-NQ57)」の開発

藤生 大我(認知症介護研究・研修東京センター), 内藤 典子, 滝口 優子, 伊東 美緒, 山上 徹也, 山口 晴保

認知症ケア研究誌(2433-4995)3巻 Page24-37(2019.)

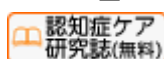
論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; 精神医学的評価尺度; *認知症; 観察者による差; 結果再現性; 要介護状態区分; 介護職; *行動心理学的症候(予防, 診断)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】BPSDの予兆や初期症状を捉えて予防するためのBPSD気づき質問票57項目版(BPSDNQ57)を開発し、妥当性・信頼性を検証する。【方法】対象は認知症高齢者103名(一部47名)である。評価はNPI-Qと今回開発したBPSD-NQ57を用い、初回と2週間後の2回実施した。なお、BPSD-NQ57はNeuropsychiatric Inventory(NPI)に含まれる9下位項目をもとにBPSDの予兆や初期症状となる計57項目(9カテゴリー:不安、脱抑制、常同行動、易怒性、興奮、もの盗られ妄想、幻覚、無関心・アパシー、うつ)で構成されている。妥当性はSpearman順位相関係数を用いて検討した。また、該当するNPI-Q項目の重症度でBPSDあり群、BPSDなし群に分けて、BPSD-NQ57の当該カテゴリー合計点をMann Whitney U-testで比較した。信頼性はクロンバックの α 係数で検討した。また、検者内信頼性として初回と2週間後評価をICC(1.1)で検討した。さらに、検者間信頼性として認知症高齢者4名のそれぞれを介護職員5名が評価し、ICC(2.1)で検討した。【結果】BPSD-NQ57のクロンバックの α 係数は0.83であった。BPSD-NQ57とNPI-Qは $p=0.53$ と中程度の有意な正の相関を認めた。また、BPSD-NQ57各カテゴリーは対応するNPI-Q各下位項目とすべて弱いから中程度の有意な正の相関を認めた。BPSD-NQ57の点数は、もの盗られ妄想を除く8カテゴリーでBPSDあり群の方が有意に高かった。BPSD-NQ57はICC(1.1)で $p=0.78$ の検者内信頼性を示した。経験年数3年以上の介護職員で絞るとICC(2.1)で $p=0.56$ の検者間信頼性を示した。【結論】BPSD-NQ57を開発し、妥当性・信頼性が確認された。(著者抄録)

2019232060 , DOI : 10.24745/jdcr.3.0_24



認知症家族介護者がつけたポジティブ日記の内容分析 ポジティブな気づきの促進に向けて

藤生 大我(認知症介護研究・研修東京センター), 山上 徹也, 山口 晴保
日本認知症ケア学会誌(1882-0255)17巻4号 Page735-741(2019.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 意識性; 在宅介護; 在宅介護支援サービス; *認知症; 日常生活活動; 人間関係; 趣味; *家族介護者; 介護負担(予防); 日記; *家族心理学

医中誌フリーキーワード : 内容分析

チェックタグ : ヒト; 中年(45~64); 高齢者(65~79); 男; 女

Abstract : 認知症家族介護者支援の基礎資料を得る目的で、認知症家族介護者に「ポジティブ日記(その日にあったよいこと3つとその理由、および自分をほめる言葉を記載する日記)」を実施し、その文章からなにをポジティブにとらえているのかを検討した。対象は認知症家族介護者10人であり、4週間のポジティブ日記の記述内容を分析した。その結果、「日常生活(174文)」「被介護者以外の他者との交流(159文)」「介護に関する場面(115文)」「趣味・余暇活動(109文)」「日々の努力へのねぎらい(70文)」「自然や動物などのかかわり(40文)」の6カテゴリーが抽出された。認知症家族介護者は、生活上のふとした出来事や人との交流、好きなことができたこと、さらにはうまくいった介護経験などをポ

ジティブ日記に書いており、そのようなポジティブな気づきを促すことが支援方法となる可能性が示唆された。(著者抄録)

2019196072



14

BPSDの新規評価尺度 認知症困りごと質問票BPSD+Qの開発と信頼性・妥当性の検討

内藤 典子(認知症介護研究・研修東京センター), 藤生 大我, 滝口 優子, 伊東 美緒, 山上 徹也, 山口 晴保

認知症ケア研究誌(2433-4995)2巻 Page133-145(2018.12)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; *認知症(診断,合併症); 観察者による差; 結果再現性; 介護福祉士; *行動心理学的症候(診断,病因)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】BPSDの解決に向けた新規評価尺度である認知症困りごと質問票(BPSD+Q)を開発し、信頼性・妥当性を検証する。【方法】介護保険主治医意見書の周辺症状項目を中心とした過活動13項目、低活動6項目、生活関連6項目、せん妄2項目の計27項目を選定し、各質問項目の重症度と負担度を0~5点で評価するBPSD+Qを開発した。また、せん妄を除いた25項目をBPSD25Qとした。認知症高齢者83名を対象に、BPSD+QとNPI-Qを評価し、Spearman順位相関係数を用いて基準関連妥当性を検討した。内的一貫性はクロンバックの α 係数で検討した。そのうちの55名を対象に、BPSD+QとNPI-Qを2週間後に再評価し、検者内信頼性をICC(1.1)で検討した。また、認知症高齢者4名のそれぞれを介護職員3名が評価して、検者間信頼性をICC(2.1)で検討した。【結果】BPSD+Qのクロンバックの α 係数は重症度0.78、負担度0.80であった。BPSD+QとNPI-Qの相関は、重症度は $p=0.64(p<0.01)$ 、負担度は $p=0.65(p<0.01)$ とやや強い有意な正の相関を認められた。ICC(1.1)で、BPSD+Q重症度は $p=0.68$ 、負担度は $p=0.70$ であった。一方、NPI-Q重症度は $p=0.61$ 、負担度は $p=0.55$ であった。ICC(2.1)で、BPSD+Q重症度は $p=0.73$ 、負担度は $p=0.68$ であった。一方、NPI-Q重症度は $p=0.37$ 、負担度は $p=0.45$ であった。BPSD25Qでも信頼性・妥当性はほぼ同様の結果だった。BPSD+Qでは、繰り返し質問(70%)、傾眠傾向(40%)、易怒性(37%)の出現率が高かった。【結論】BPSDを過活動、低活動、生活関連に分け、BPSDへの対応に根ざした評価尺度であるBPSD+QとBPSD25Qを開発し、信頼性・妥当性が確認された。(著者抄録)

2019141757



15

認知症介護指導者のBPSDに対する解釈の検討

中村 考一(浴風会認知症介護研究・研修東京センター), 滝口 優子, 山口 晴保

認知症ケア研究誌(2433-4995)2巻 Page116-125(2018.12)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; 認知症(診断,合併症); 指導者; 家族介護者; *行動心理学的症候(診断)

チェックタグ : ヒト

Abstract : 【目的】認知症介護指導者(以下、指導者)が認知症の行動・心理症状(BPSD)という用語をどのように解釈しているかを明らかにする。【方法】指導者117人に対して、135種類の認知症による症状について、BPSD・中核症状・生活障害・判別できない、の4選択肢を設け、どれにあたるか単数回答により判断を求めた。回答結果から、選択肢の選択率が25%以上の症状を抽出し、選択率や重複数を症状別に確認した。また、国際老年精神医学会によるBPSDの分類と合致する16種類の症状について、単純コレスポネンス分析を行った。【結果】135種類の症状について、分析対象とした68人で分析した。選択率が25%以上の症状の重複を数えたところ、25%以上の選択率の選択肢に重複がない「理解のばらつきが小さい症状」が58種類、2種類の選択肢で25%以上の選択率となっている「理解にばらつきのある症状」が64種類、3種類で25%以上の選択率の選択肢のある「理解のばらつきの大きい症状」が13種類抽出された。単純コレスポネンス分析の結果(イナーシャの寄与率による累積説明率は88.3%)、中核症状付近には、同じ話繰り返し、誤認などが付置された。また、BPSD付近には、性的逸脱、攻撃的行動、徘徊などが付置された。生活障害付近には、不眠、まつわりつきが付置された。【結論】主なBPSDは性質も含めて理解されているが、半数以上の症状で、解釈がばらついていた。BPSDの概念の正しい普及が望まれる。(著者抄録)

2019141755



認知症グループホームにおけるグループホームケアの効果研究

山口 晴保(認知症介護研究・研修東京センター), 林 邦彦, 安藤 高夫, 井上 謙一, 佐々木 薫, 関本 紀美子, 繁澤 正彦, 林田 貴久, 宮崎 直人, 古川 和良, 今野 亜希子, 保坂 孝信, 前田 克実

認知症ケア研究誌(2433-4995)2巻 Page103-115(2018.12)

論文種類 : 原著論文

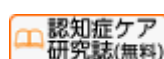
シソーラス用語 : 生活の質; *認知症(予後,治療); 分散分析; *グループホーム; 行動心理学的症候

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 目的:認知症グループホームケアの有効性を定量的評価に基づいて示すこと。方法:全国の認知症グループホームに協力を依頼し、既存入居群(3カ月以上入居)484名では入居時と3カ月後の2時点で、新規入居群では入居時、1カ月後、3カ月後および可能であれば入居前の4時点で調査を行った。ケアの効果指標にはBPSDの指標としてNPI-NHとその職業的負担度(NPI-D)、QOLの指標にはshort QOL-Dを用い、統計学的に分析した。結果:1)入居時と3カ月後を比較すると、既存入居群484名は、NPI-NHがわずかな有意の改善を示し、職業的負担度とshort QOL-Dは有意な変化を示さなかった。一方、新規入居群71名は、いずれの指標も有意に改善した。新規入居群の変化は、既存入居群の変化と比べたとき、BPSDが改善傾向、NPI-Dによる職業的負担度とQOLが有意な改善(交互作用)を示した。2)新規入居群で入居前評価と入居時・1カ月後のデータが揃った68名では、いずれの指標も有意な改善を示し、既存入居群の値に近づいた。3)入居時と1カ月後が揃った新規入居群114名では、3指標とも有意な改善を示した。抗精神病薬が新規入居から1カ月後の時点で投与されていた20名と非投与94名を比較すると、非投与群でのみ有意な改善が示された。3指標の改善効果は抗精神病薬投与群と非投与群で有意な交互作用がなかった。結論:

認知症グループホームケアにより、入居から3ヵ月後にはBPSDが安定してQOLが高まり、既存入居群と変わらないレベルになることを示した。さらに、この効果は抗精神病薬投与によるものではないと示唆された。(著者抄録)

2019141754



17

地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメント(DASC-21)の認知症初期集中支援チームにおける有用性

山口 智晴(群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部), 堀口 布美子, 狩野 寛子, 上山 真美, 小山 晶子, 黒沢 一美, 戸谷 麻衣子, 高玉 真光, 山口 晴保, 前橋市認知症初期集中支援チーム

認知症ケア研究誌(2433-4995)2巻 Page58-65(2018.12)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 精神疾患(診断); *認知症(診断); 分散分析; *チーム医療; *包括医療; ROC曲線; *地域保健医療サービス; 認知機能低下(診断); Mini-Mental State; 長谷川式簡易知能評価スケール; *介護アセスメント

医中誌フリーキーワード : 手段的ADL; *地域包括ケアシステム; 前橋市

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】 認知症初期集中支援チームにおけるDASC-21の特徴と有用性を明らかにする。【方法】 認知症初期集中支援チームの対象者のうち、健常4名、MCI 11名、認知症87名および精神疾患9名の計111名(80.5±5.9歳)におけるDASC-21の群間差や認知症診断の感度・特異度、MMSE、HDS-Rとの関係、DASC-21下位項目における群毎の特徴などを検討した。【結果】 年齢を統制したDASC-21とMMSEの偏相関係数は $r=-0.70(p<0.001, n=64)$ で比較的強い有意な負の相関を示し、HDS-Rでも同偏相関係数は $r=-0.62(p<0.001, n=67)$ と有意な負の相関を示した。また、DASC-21合計点は健常とMCI、精神疾患の3群と比して認知症で有意に高く($p<0.001$)、DASC-21は健常と認知症を有意に弁別し($AUC=0.974, p=0.001$)、カットオフを30/31点とした場合の感度は92%、特異度は100%であった。健常とMCI、認知症、精神疾患の4群間においてDASC-21の7つの下位項目での差は、身体的ADL1)と身体的ADL2)を除く、記憶($F(3,107)=8.30, p<0.001$)、見当識($F(3,107)=7.50, p<0.001$)、問題解決($F(3,107)=9.42, p<0.001$)、家庭外IADL($F(3,107)=12.18, p<0.001$)、家庭内IADL($F(3,107)=11.09, p<0.001$)の5つの下位項目で統計学的有意差を認めた(一元配置分散分析)。VD群が身体的ADLにおいて他群より高値な傾向を示し、DLB群ではIADLやADLの項目が低値な傾向、AD群では特に記憶とIADLが高値な傾向を認めたが、各群におけるDASC-21下位項目毎において統計学的有意差は認めなかった。【結論】 DASC-21はMMSEやHDS-Rと相関し、正常と認知症の判別にも有用であった。DASC-21は認知症初期集中支援事業だけでなく、認知機能検査の実施が困難な地域実践の現場で特に有用であり、地域包括支援センターにおける支援者の評価や介護支援専門員によるケアマネジメントなどにも役立つ指標だと考える。(著者抄録)

2019141749



病識低下がBPSD増悪・うつ軽減と関連する 認知症疾患医療センターもの忘れ外来365例の分析

山口 晴保(認知症介護研究・研修東京センター), 中島 智子, 内田 成香, 松本 美江, 甘利 雅邦, 池田 将樹, 山口 智晴, 牧 陽子, 高玉 真光

認知症ケア研究誌(2433-4995)2巻 Page39-50(2018.12)

論文種類 : 原著論文/比較研究

シソーラス用語 : 質問紙法; *うつ病(診断,合併症); *認知症(診断,合併症); 分散分析; 後向き研究; 病勢悪化; *病識; 家族介護者; *認知機能低下(診断,合併症); *行動心理学的症候(診断,合併症)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】病識低下の程度と認知機能、うつ、BPSDとの関係を明らかにする。

【方法】対象は健常、MCI、認知症の計365名(平均80.1±5.9歳)。認知症初期症状11項目質問票(SED-11Q)を本人と家族の両者が記入し、その点差(家族-本人)を病識低下度とし、HDS-R、GDS15(うつ)、DBDスケール(行動障害)、病型、性別、妄想などとの関係を統計学的に検討した。【結果】全体では、病識低下度は健常群(n=15)-0.467±3.03、MCI群(n=70)0.929±3.38、認知症群(n=280)2.68±3.65で、認知症群はいずれの群よりも有意に高かった。認知症群のなかで、SED-11Qの項目ごとの病識低下度は、「薬の管理」で最も大きかった。病識低下度はHDS-Rとの有意な弱い負の相関を示した

($r=-0.221, p<0.001$)。病識低下度はGDS15とも有意な弱い負の相関を示し

($r=-0.349, p<0.001$)、病識が低下するほどうつ傾向が軽かった。さらに、病識低下度はDBDスケールとも中等度の有意な正の相関を示し($r=0.485, p<0.001$)、病識が低下するほど行動障害が強かった。妄想は女性に有意に多く($p=0.044$)、妄想あり群3.74±3.47は妄想無し群1.85±3.44よりも病識低下度が有意に大きかった($p=0.004$)。SED-11Q介護者点は、子供5.54±2.95よりも配偶者4.36±2.57が記入したほうが有意に低かった($p=0.021$)。【結論】認知症群では、病識が保たれるほどうつになりやすく、逆に病識が低下するほど行動障害が強くなった。さらに、薬の管理に対する病識低下が強かった。病識低下はBPSD(行動障害)と関連しており、妄想があると病識低下度が大きかった。介護者が本人の病識低下度を理解してケアすることが、BPSDの予防や薬剤管理などの生活支援に重要である。(著者抄録)

2019141747



住民主体の通いの場への参加意向と関連要因の検討 介護保険要支援者の社会参加を促すためのリハ専門職の役割

齊藤 道子(玉村町健康福祉課), 山上 徹也, 田中 繁弥, 浅川 康吉, 山口 晴保

理学療法群馬(0917-5474)29号 Page48-58(2018.08)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; 健康増進; 健康への態度; 断面研究; 日常生活活動; 高齢者評価; 介護保険; *要介護者; 要介護状態区分; 理学療法士; *専門職の役割; 閉じこもり(リハビリテーション); *介護予防; *社会参加; 住民参加

医中誌フリーキーワード : 玉村町

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 住民が主体となって通いの場を作る、地域づくりによる介護予防が推奨されている。要支援者の通いの場への参加促進方法を検討する目的で、群馬県玉村町の要支援者137人を対象に、通いの場への参加意向とその理由を調査した。その結果、参加意向有りは45人(32.8%)、参加意向無しは92人(67.2%)であった。参加意向を示した者の参加理由は交流と健康保持であり、属性は後期高齢女性で主観的健康観が高く、通いの場の存在を知っている者が多かった。参加意向を示さなかった者のうち、移動困難を理由とした者は85歳以上、女性、要支援2、全般的機能低下者が多く、痛みがあり、閉じこもり傾向にあった。一方、移動困難以外を理由とした者は、前期高齢者、男性、要支援1が多く、生活障害が軽度な者が多かった。要支援者のニーズは多岐に渡り、通いの場への参加促進には、対象者のニーズに応じたり専門職の関わりが重要である可能性が示された。(著者抄録)

2019027280



20

認知症疾患医療センター外来のBPSDの傾向 NPIによる検討

山口 晴保(認知症介護研究・研修東京センター), 中島 智子, 内田 成香, 松本 美江, 甘利 雅邦, 池田 将樹, 山口 智晴, 高玉 真光

認知症ケア研究誌(2433-4995)1巻 Page3-10(2017.11)

論文種類 : 原著論文/比較研究

シソーラス用語 : Alzheimer病(診断); *神経心理学的検査; *認知症(診断); 認知症-血管性(診断); 分散分析; Lewy小体病(診断); 認知症-前頭側頭型(診断); 認知機能低下(診断); 長谷川式簡易知能評価スケール; *行動心理学的症候(診断)

医中誌フリーキーワード : 認知症疾患医療センター

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】適切な医療を提供するため、認知症疾患医療センター外来受診者のBPSDの特性をNeuropsychiatric inventory(NPI)を用いて検討した。【方法】対象はMCI群16例と認知症群163例の計179例(80.2±6.9歳)。NPIと認知機能(HDS-R)や年齢、病型との関係や各質問項目の出現頻度などを検討した。【結果】MCI群ではNPI 13.3±20.6点、認知症群ではNPI 22.7±22.8点で、MCI群が低かった(有意差無し)。介護負担(distress)を表すNPI-DはMCI群10.5±10.9点、認知症群10.1±9.8点で同等だった。病型別ではDLB群20例がADD群75例よりも有意に高かった(p=0.005)。相関を調べると、全体ではNPIがHDS-Rと有意な負の相関を示した(r=-0.188,p=0.021)。認知症群では、NPI-DがHDS-Rと有意な負の相関を示した(r=-0.212,p=0.037)。NPIとNPI-Dは高い相関を示した(r=0.800,p<0.001)。出現頻度が高い項目は無関心57.5%、興奮54.2%、易刺激性44.7%、不安39.7%、妄想36.9%の順であった。平均点が高い項目は、興奮3.51、無関心3.12、易刺激性3.0、妄想2.63の順だった。NPI-DをNPIで割って負担率を検討すると、興奮(0.6)や妄想(0.56)が負担になりやすく、多幸(0.12)や無関心(0.3)は負担になりにくかった。【考察】BPSDはMCIの段階からみられ、進行とともにBPSDが強まり、介護負担が増大する傾向が示された。興奮や妄想は介護者の負担になりやすく、認知症疾患医療センターではこれらのBPSDへの適切な対応を用意する必要がある。(著者抄録)

2018309115

21

認知症家族介護者がポジティブ日記をつけることの効果

藤生 大我(認知症介護研究・研修東京センター), 山上 徹也, 山口 晴保
日本認知症ケア学会誌(1882-0255)16巻4号 Page779-790(2018.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 記録; *認知症; 介入研究; 自己効力感; 半構成的面接; *家族介護者; 自己報告式質問調査; *介護負担(予防); 行動心理学的症候(予防); 家族心理学; 介護者-患者関係

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44); 中年(45~64); 高齢者(65~79); 男; 女

Abstract : 認知症家族介護者の介護負担感軽減、介護肯定感向上、また家族介護者の行動や認識の変化と被介護者の認知症の行動・心理症状(BPSD)の軽減を期待して、1日にあったよいこと3つとその理由、および自分をほめる言葉を記載する日記(ポジティブ日記)を考案し、その効果を検証した。対象は家族介護者16人であった。研究デザインは、観察期間と介入期間各4週間を設けた。その結果、最終的な解析対象者は10人(62.5%)であり、観察期間に比し、介入期間にNeuropsychiatric Inventory(NPI)(下位項目では妄想)、NPI-Caregiver Distress(下位項目ではうつ)の有意な軽減がみられた($p < 0.05$)。介護充実感尺度、認知症介護肯定感尺度、Zarit介護負担感尺度短縮版に有意な変化はみられなかった。以上から、ポジティブ日記はBPSD、およびそれに伴う負担の軽減に有効である可能性が示唆された。(著者抄録)

2018157725



22

認知症疾患医療センター外来でのDBDスケールによる行動障害評価の検討

山口 晴保(認知症介護研究・研修東京センター), 中島 智子, 内田 成香, 松本 美江, 甘利 雅邦, 池田 将樹, 山口 智晴, 高玉 真光

Dementia Japan(1342-646X)31巻3号 Page389-397(2017.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(合併症,診断); *行動症状(病因,診断); *認知症(合併症,診断); 分散分析; 結果再現性; Lewy小体病(合併症,診断); 認知症-前頭側頭型(合併症,診断); 認知機能低下(合併症,診断); 患者重症度; *外来診療; 行動評価尺度; Mini-Mental State; 長谷川式簡易知能評価スケール

医中誌フリーキーワード : 認知症疾患医療センター

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】適切な医療を提供するため、認知症疾患医療センター外来での行動障害を評価することが重要であり、その評価尺度としてDBDスケールの有用性を、行動障害の特徴と共に示した。【方法】対象はMCI群69例と認知症群344例の計413例(80.4±6.9歳)。dementia behavior disturbance(DBD)scaleと認知機能(HDS-R)や年齢、病型との関係や各質問項目の出現頻度を検討した。【結果】MCI群ではDBD13.1±9.5点、認知症群ではDBD21.2±13.6点で、MCI群が有意に低かった($p < 0.001$)。軽度認知症群は16.3±11.7点、中等度群は21.5±12.9点、重度群は30.0±14.1点と病期に伴って上昇した

($p < 0.001$)。認知症群ではHDS-Rとは有意な弱い逆相関を示した($r = -0.354$, $p < 0.001$)。病型別ではDLB群がADD群よりも有意に高かった。項目別では2点(ときどきある)以上を陽性とする、「何度も聞く」が91%・80%(認知症群・MCI群)と最も高頻度で、次いで「物をなくす」が82%・68%に出現し、次は「無関心」が51%・30%、次は「昼寝てばかり」が50%・29%に出現した。DBDスケールはNeuropsychiatric Inventory(NP)と中等度の相関を示した($r = 0.544$)。【考察】記憶障害を背景にした繰り返し質問やしまい忘れ、またアパシーや不活発がMCIの段階から高頻度にみられることから、認知症疾患医療センターではこれらの症状への適切な対応が求められるが、介護者記入のDBDスケールでの把握が簡便である。(著者抄録)

2018042428



23

平成25-26年度前橋市認知症初期集中支援事業の取り組みと成果

山口 晴保(群馬大学 大学院保健学研究科), 上山 真美, 小山 晶子, 山口 智晴, 堀口 布美子, 狩野 寛子, 高玉 真光, 山田 圭子, 大崎 治, 中島 敦子, 高橋 宏子, 伊藤 建朗
群馬医学(0285-0656)104号 Page75-80(2016.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 障害度評価; 地域精神保健サービス; *認知症(合併症); 日常生活活動; チーム医療; *包括医療; 訪問介護; アウトカム評価(保健医療); 地域社会ネットワーク; *地域保健医療サービス; 行動心理学的症候(病因)

医中誌フリーキーワード : *地域包括ケアシステム; 前橋市

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 平成25年9月の事業開始~平成27年3月に93例(男34例、女59例、平均年齢79.9歳)の依頼を受けた。認知症または認知症が疑われたのは71例であり、支援対象者の日常生活自立度はIとIIで74.2%を占めた。未訪問者を除く86例について、初回訪問までの期間は14.1日、初回訪問の訪問所要時間は103.4分であり、支援終了に至った62例について訪問回数は2.9回、支援終了までの関与期間は144.5日であった。期間内に支援が終了した68例への支援結果として、新たに医療とつながった30例、つながらなかった4例、不要であった1例であり、また新たに介護保険サービスの利用につながったケース26例、つながらなかったケース19例、不要であったケース8例であった。支援チームの介入前後で、認知症アセスメントシートは著変なく、認知症行動尺度短縮版は若干の軽減を認め、Zarit介護負担尺度日本語版の短縮版は統計学的有意差を認めないものの軽減していた。

2017094146



24

折り紙認知症スクリーニングテストの開発

松原 昇平(群馬大学医学部附属病院), 小山 晶子, 内田 陽子, 佐藤 文美, 山口 晴保
日本認知症ケア学会誌(1882-0255)15巻3号 Page647-654(2016.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : *認知症(診断); 検査予測値; 早期診断; 長谷川式簡易知能評価スケール

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 本研究は、折り紙認知症スクリーニングテスト(Origami Dementia Screening Test;ODST)の開発を目的に、ODSTと改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)との関連性を明らかにした。調査に同意した地域在住高齢者65人を対象とした。ODSTは、正方形の紙を6工程で折って犬の顔をつくるものであり、折れた工程数をODST得点とする。HDS-R得点とODST得点との間には、有意な相関を認めた($r=0.73$ 、 $p<0.01$)。ODST得点4点以下群はHDS-Rの平均得点が 16.5 ± 7.0 、5点以上群は 26.2 ± 3.1 と有意差を認めた($U=105.5$ 、 $p<0.01$)。RCD解析から、4点/5点をカットオフ値とすると、HDS-R20点以下群を感度91.7%、特異度75.6%で検出できた。以上から、ODSTを認知症のスクリーニング検査に使用できる可能性が示唆された。(著者抄録)
2017062100



25

認知症病型分類質問票41項目版(Dementia differentiation questionnaire-41 items;DDQ41)の試み

山口 晴保(群馬大学 大学院保健学研究科), 中島 智子, 内田 成香, 甘利 雅邦, 池田 将樹, 牧陽子, 山口 智晴, 篠原 るみ, 高玉 真光

日本プライマリ・ケア連合学会誌(2185-2928)39巻1号 Page29-36(2016.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : *Alzheimer病(診断); 質問紙法; 鑑別診断; *認知症-血管性(診断); *Parkinson病(診断); 分散分析; 分類; ROC曲線; 結果再現性; *Lewy小体病(診断); チェックリスト; *認知機能低下(診断)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 目的:診療の補助ツールとして、症状の見落としを防ぎつつ、認知症各病型の判別や非アルツハイマー型認知症の気づきにも役立つ介護者記入式質問票の開発を試みた。方法:認知症初期症状11項目(Q-Dementia11)、アルツハイマー型認知症8(Q-ADD8)、レビー小体型認知症9(Q-DLB9)、血管性認知症8(Q-VD8;DLBと2項目重複)、前頭葉症状5(Q-Frontal5)、尿失禁と発語減少各1の全41項目の認知症諸症状の質問票(DDQ41)を、初診時に575名の介護者が記入した(臨床診断が単独の例のみを抽出)。これを臨床診断と照合し、分析した。結果:1)Q-Dementia11はMCI群($n=44$)で認知症群よりも有意に低かった。2)Q-ADD8は他の認知症病型でも陽性傾向があり、これのみでは病型判別には役立たなかった。3)Q-DLB9は、DLB群が他の認知症病型群よりも有意に高値で、ROC曲線下面積85.6%、4項目以上を陽性とする感度82.6%、特異度77.7%と、判別に有用であった。結論:介護者が記入することで、認知症診療に必要な諸症状の有無を1枚のシートで確認できる認知症病型分類質問票の開発を試みた。主要症状を網羅してあるので、症状の見落としを防ぐことが期待される。さらに、前頭葉症状や非アルツハイマー型認知症、特にレビー小体型認知症への気づきに活用できるものと考えられた。(著者抄録)
2016321904 , DOI : 10.14442/generalist.39.29



26

老健における脳活性化リハビリテーションの有効性に関するRCT研究 集団リハで認知症重症度改善と主観的QOL保持

山上 徹也(高崎健康福祉大学 保健医療学部), 堀越 亮平, 田中 壮佑, 山口 晴保
Dementia Japan(1342-646X)29巻4号 Page622-633(2015.10)

論文種類 : 原著論文/ランダム化比較試験

シソーラス用語 : *集団過程; 神経心理学的検査; *生活の質; *認知症(診断,治療,リハビリテーション); 動機付け; 分散分析; *リハビリテーション; 治療成績; ランダム化比較試験; 抑うつ; 介護老人保健施設; 患者アウトカム評価; 患者重症度; 長谷川式簡易知能評価スケール

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】老健における認知症リハのあり方を検討する。【方法】老健入所者23名(内認知症の疑い11名)を対象に無作為化比較試験を実施した。介入群には週1回、3カ月間、脳活性化リハの5原則に基づく集団リハを実施した。評価指標には、CDR-SB、MOSES、QOL-AD、MMSE、HDS-R、TMT-Aを用いた。【結果】介入群と対照群間でCDR-SB($F=5.972$, $p=0.027$)とQOL-AD($F=4.911$, $p=0.043$)に有意な交互作用を認め、介入群では認知症の全般的重症度が有意に改善し($p=0.039$)、主観的QOLの維持・改善傾向を認めた。【結論】老健のリハは個別リハが基準とされているが、脳活性化リハの5原則に基づく集団リハでも、認知症重症度が低減し、主観的QOLが維持・改善する可能性が示された。(著者抄録)

2016072875



27

前橋市における認知症初期集中支援チームの活動実績と効果の検討

山口 智晴(群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部), 堀口 布美子, 狩野 寛子, 栗本 久, 宮澤 真優美, 上原 久実, 山田 圭子, 大崎 治, 中島 敦子, 伊藤 建朗, 高玉 真光, 山口 晴保, 前橋市認知症初期集中支援チーム

Dementia Japan(1342-646X)29巻4号 Page586-595(2015.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 神経心理学的検査; 鑑別診断; *地域精神保健サービス; 専門職間人間関係; *認知症(診断,治療,予後); *チーム医療; *社会的支援; 地域社会ネットワーク; 治療成績; 患者-家族関係; 認知機能低下

医中誌フリーキーワード : 前橋市

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】前橋市における認知症初期集中支援チームの活動状況と効果について示す。【方法】平成25年8月から平成26年11月末までの対象者属性と活動実績を分析し、効果を検討した。【結果】対象69名の年齢は 79.7 ± 6.6 歳で、比較的軽度の認知症が75.4%を占めたが、介入困難事例が58.0%あった。支援終了者54名について、平均訪問回数は 2.9 ± 1.9 回($n=49$, 1~10回)で、支援により適切な医療資源には21名($n=54$, 38.9%)が、介護保険には19例($n=54$, 35.2%)が新たにつながった。85.2%が在宅生活を継続した。介護負担(J-ZBI_8)は前後比較で有意な改善を認めた($n=26$, $p=0.01$)。

【まとめ】前橋市のチームは、市医師会や地域包括支援センターと連携して在宅生活支援を行った。(著者抄録)

2016072871



簡易な認知症問診技術TOP-Q(東京都大森医師会認知症簡易スクリーニング法)の有用性に関する検討 東京都大田区三医師会所属多施設かかりつけ医によるPilot studyの解析

工藤 千秋(くどうちあき脳神経外科クリニック), 荻原 牧夫, 金子 則彦, 熊谷 頼佳, 織茂 毅, 青木 伸夫, 渡辺 象, 南雲 晃彦, 高瀬 義昌, 荒井 俊秀, 北條 稔, 鈴木 央, 岸 太一, 山口 晴保, 東京都大田区三医師会認知症研究会

老年精神医学雑誌(0915-6305)26巻8号 Page909-917(2015.08)

論文種類: 原著論文

シソーラス用語: *認知症(診断); *病歴聴取; プライマリヘルスケア; ROC曲線; パイロットプロジェクト; 地域社会ネットワーク; 医師会; 早期診断; 家庭医; Mini-Mental State

医中誌フリーキーワード: 大田区

チェックタグ: ヒト; 中年(45~64); 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract: 自然な会話と簡単な運動機能検査で患者への心的負担を軽くした東京都大森医師会認知症簡易スクリーニング法(TOP-Q)を用いて、50歳以上の区民検診の受診者2,105人を対象にその有効性に関する検討を行った。MMSE評価まで行えた1,071人を対象としたROC解析の結果、TOP-Q得点による認知症疑いのカットオフ・ポイントは2点で、感度0.95、特異度0.86であった。数量化II類による判別率は0.93(相関比0.60)であり、高い検出力を示した。また振り向き徴候がMMSE20~23点群で87.5%、10~19点群で97.7%にみられた。認知症の地域医療連携にとって、TOP-Qは有用な簡易認知症スクリーニング法であることが判明した。(著者抄録)

2015399567



高齢者用集団版認知機能検査ファイブ・コグの信頼性と妥当性の検討 軽度認知障害スクリーニング・ツールとしての適用可能性について

杉山 美香(東京都健康長寿医療センター東京都老人総合研究所 自立促進と介護予防研究チーム), 伊集院 睦雄, 佐久間 尚子, 宮前 史子, 井藤 佳恵, 宇良 千秋, 稲垣 宏樹, 岡村 毅, 矢富 直美, 山口 晴保, 藤原 佳典, 高橋 龍太郎, 粟田 圭一

老年精神医学雑誌(0915-6305)26巻2号 Page183-195(2015.02)

論文種類: 原著論文

シソーラス用語: Wechsler知能検査; 言語検査; *集団検診; 身体運動; *地域精神保健サービス; 手がかり; ロジスティックモデル; ROC曲線; 基準値; 結果再現性; *認知機能低下(診断); Mini-Mental State

医中誌フリーキーワード: 時計描画テスト; 文字

チェックタグ: ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract: 高齢者用集団版認知機能検査ファイブ・コグの信頼性と妥当性、および軽度認知障害(MCI)スクリーニング・ツールとしての適用可能性を検討した。対象は65歳以上の地域在住高齢者延べ426人である。ファイブ・コグの再検査法による級内相関係数(ICC)は時計描画課題を除くすべての課題で0.684~0.809($p < 0.01$)であった。各課題得点は他の心理検査(MMSE、AQT、WAIS-III、TMT-A、TMT-B、WMS-R)の総合得点および下位得点と広く相関した。CDR0.5群の各課題の平均得点は、CDR0群に比較して有意に低く、ROC分析において、全課題の合成得点の曲線下面積(AUC)は0.803(95% CI:0.734-

0.872)、-0.091をカットオフ値とする感度は78%、特異度は75%であった。ファイブ・コグは地域のなかでMCI高齢者を検出するスクリーニング・ツールとして適用可能である。(著者抄録)

2015205585



30

群馬県の認知症疾患医療センターの活動実績と受診経過

山口 晴保(群馬大学 大学院保健学研究科), 中島 智子, 内田 成香, 野中 和英, 松本 美江, 牧陽子, 山口 智晴, 高玉 真光

Dementia Japan(1342-646X)28巻3号 Page329-338(2014.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 鑑別診断; *認知症(診断); 追跡研究; 地域社会ネットワーク; 群馬県; Mini-Mental State; 介護負担

医中誌フリーキーワード : 認知症疾患医療センター

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】群馬県の認知症疾患医療センター(認セ)の活動状況を示す。【方法】群馬県10認セの活動状況のデータ分析と、1地域型認セ(当認セ)の経過観察63例での分析を行った。【結果】1)県全体では相談者6,000名/年、鑑別診断数3,000名/年で実績が伸びている。2)当認セは、相談者が100名/月、鑑別診断数が60名/月と、地域型としては高い活動であった。神経内科・老年科主体で運営している認セの方が、精神科主体よりも相談者数と鑑別診断数が約2倍高かった。3)当認セ診療継続54例で、3カ月後にMMSEの有意な上昇と、行動障害尺度DBD高値群での有意な低下を認めた。【まとめ】群馬県は概ね二次医療圏域ごとに地域型認セを配置して、「認知症の人の在宅生活を支える」というオレンジプランの趣旨に沿った活動ができている。(著者抄録)

2015021573



31

回復期リハビリテーション病棟における認知症の実態と対応 日本リハビリテーション病院・施設協会認知症対策検討委員会の調査

山口 晴保(群馬大学 大学院保健学研究科), 中間 浩一, 西 千亜紀, 田中 志子, 牧陽子, 亀ヶ谷 忠彦, 斉藤 正身, 宮里 好一

地域リハビリテーション(1880-5523)9巻8号 Page662-668(2014.08)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; 変形性関節症(合併症,リハビリテーション); コミュニケーション; 医療従事者-患者関係; *認知症(リハビリテーション,合併症); 脳血管障害; *回復期病院; *病院リハビリテーション科; 廃用症候群(合併症,リハビリテーション); レクリエーション療法; 行動心理学的症候(リハビリテーション)

チェックタグ : ヒト

Abstract : 回復期リハビリテーション病棟における認知症の実態と対応について検討した。回復期リハ病棟112病棟のリハ利用者は6946例で、認知症を有する人数は2265例(32.6%)であった。このうち820例が診断ありであった。認知症を有する人数のリハ利用

者数に対する割合は35.3±19.30%で、21～50%の病棟が多かった。認知症のタイプは、未回答と不明を除く993例では、脳血管性認知症が552例(55.6%)、アルツハイマー型認知症が371例(37.4%)、レビー小体型認知症が18例(1.8%)などであった。行動・心理症状で苦慮している施設が多いが、各施設では日中のレクリエーションやアクティビティ、傾聴、会話などの対策に工夫を凝らしていた。認知機能の評価尺度は普及しているが、BPSDの定量的評価がほとんど行われていなかった。

2014339242



32

介護老人保健施設における認知症の実態と対応 日本リハビリテーション病院・施設協会 認知症対策検討委員会の調査

田中 志子(大誠会内田病院), 山口 晴保, 中間 浩一, 西 千亜紀, 牧 陽子, 斉藤 正身, 宮里 好一

地域リハビリテーション(1880-5523)9巻8号 Page656-660(2014.08)

論文種類：原著論文

シソーラス用語：質問紙法；変形性関節症(合併症,リハビリテーション)；気道疾患(合併症,リハビリテーション)；心臓血管疾患(合併症,リハビリテーション)；*認知症(診断,合併症,リハビリテーション)；脳血管障害(合併症,リハビリテーション)；リハビリテーション；回復期病院；廃用症候群(合併症,リハビリテーション)；介護老人保健施設；Mini-Mental State；長谷川式簡易知能評価スケール

チェックタグ：ヒト；高齢者(65～79)

Abstract：介護老人保健施設(老健)における認知症の実態と対応について検討した。老健27入所施設の病床数は2719床であった。リハ利用者数は2437例で、認知症を有する人数は2025例であった。認知症を有する人数のリハ利用者数に対する割合は11～100%で平均83.1%と高かったが、原因疾患が同定されていたのは4割以下であった。リハの対象となる疾患は、脳血管障害907例、骨関節疾患664例で多く、それぞれの認知症合併率は79.4%、77.7%であった。認知症合併率は廃用症候群が275例(88.7%)で、その他の疾患でも6割を超えた。易怒性や暴力など興奮性BPSDとアパシーで苦慮する施設が多いが、BPSDの定量的評価はあまり行われていなかった。認知症短期集中リハ実施加算は大部分の施設で算定されていた。認知症に対するリハでは多数の施設が工夫を行い、小集団の活動などに取り組んでいた。

2014339241



33

東京都大森医師会認知症簡易スクリーニング法(TOP-Q)の作成 かかりつけ医・介護職のための短時間で行う問診技術

工藤 千秋(大森医師会), 鈴木 央, 渡辺 象, 北條 稔, 荒井 俊秀, 金子 則彦, 山口 晴保
老年精神医学雑誌(0915-6305)25巻6号 Page683-689(2014.06)

論文種類：原著論文

シソーラス用語：プライマリケア医；*神経心理学的検査；*認知症(診断)；*病歴聴取；医師会；*早期診断；介護職

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 男; 女

Abstract : 被検者への心理的負担が軽く、2~3分間の自然な会話と簡単な動作で認知症を評価する東京都大森医師会認知症簡易スクリーニング法(TOP-Q)の作成を試みた。内容は、(1)時事的話題に関連する年数の計算、誕生日の質問、(2)ハンド・バレー徴候、回内・回外運動と山口キツネ・ハト模倣テスト、(3)振り向き徴候の有無の3項目で構成される。健常者~認知症患者414人を対象にTOP-Qを試用したところ、1つ以上の失敗項目がある場合には、軽度認知障害(MCI)や認知症が疑われることが判明した。TOP-Qは、かかりつけ医や介護職でも実施可能な簡単な技術である。加えて、MCI~認知症を疑う1つ以上の失敗項目数を認める場合には、さらに詳しい検査を進めるために、患者を地域連携パス(専門医)に誘導する契機になると考える。(著者抄録)

2014296930



34

訪問リハビリテーションにおける認知症の実態と対応 日本リハビリテーション病院・施設協会認知症対策検討委員会の調査

中間 浩一(よみうりランド慶友病院 リハビリテーション室), 山口 晴保, 西 千亜紀, 田中 志子, 斉藤 正身, 宮里 好一

地域リハビリテーション(1880-5523)9巻5号 Page419-423(2014.05)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; 保健医療施設; 関節疾患(合併症, リハビリテーション); 骨疾患(合併症, リハビリテーション); *認知症(診断, 合併症); 脳血管障害(合併症, リハビリテーション); 重症度指標; 回復期病院; リスクマネジメント; 介護保険施設; 廃用症候群(合併症, リハビリテーション); *訪問リハビリテーション; 通所リハビリテーション; Mini-Mental State; 長谷川式簡易知能評価スケール; 行動心理学的症候(予防)

チェックタグ : ヒト

Abstract : 訪問リハビリテーション(リハ)における認知症の実態と対応について検討した。訪問リハ施設53施設の回答を分析対象とした。訪問リハの28.2%に認知症があり、各施設の認知症を有する人の割合は、11~30%の施設が多かった。認知症の診断の有無は、未回答3.3%、認知症の診断27.7%、診断なし69.0%であった。認知症のタイプは約半数が未回答で、未回答と不明を合わせると全体の63.6%であった。記載のあったものでは、脳血管性認知症が最も多く48.6%、アルツハイマー型認知症32.8%、レビー小体型認知症5.5%、前頭側頭型認知症1.3%、その他11.8%であった。利用者の対応に苦慮する行動・心理症状は、易怒性66.0%、暴言暴力60.4%、著しい意欲低下56.6%と多かった。リハの内容は、作業療法76.2%、運動療法76.2%、学習38.1%、現実見当識練習33.3%などが実施されていた。

2014228627



35

リバスチグミン貼付薬(イクセロンパッチ)の実践的投与経験

山口 晴保(群馬大学 大学院保健学研究科), 牧 陽子, 山口 智晴, 松本 美江, 中島 智子, 野中 和英, 内田 成香, 高玉 真光

論文種類：原著論文/比較研究

シソーラス用語：*Alzheimer病(薬物療法,診断,予後); *経皮投与; 皮膚症状(化学的誘発); 後向き研究; 治療成績; *Rivastigmine(治療的利用,毒性・副作用); *貼付剤(治療的利用,毒性・副作用); Mini-Mental State

チェックタグ：ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract：【目的】アルツハイマー型認知症へのリバスチグミン貼付薬(イクセロンパッチ)投与の後方視研究を行った。【方法】対象はもの忘れ外来の44例(79.8±6.7歳)で、評価はMMSE他を行った。【結果】1)経緯と有害事象:44例中16例が4~20週で投与中止となった。その理由は皮膚症状が11例と多くを占めた。継続例は28例で、47.87±27.0週間、16.2±3.5mgを投与し、うち21例が18mgで継続投与であった。2)効果:メマンチン併用5例を除き、MMSEを前後比較できた20例で、投与前18.0±6.6点から26.1±19.9週間後に20.2±6.2点と有意に改善した(p=0.022)。3)有効5例を個別に紹介した。【まとめ】リバスチグミン貼付剤は認知機能維持・改善効果が優れているが、皮膚症状対策が必要である。(著者抄録)

2014141163



36

低頻度短期間の運動機能向上プログラムが認知機能と運動機能の改善に及ぼす影響について

松林 義人(新潟リハビリテーション大学 医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻), 小川 洋介, 佐々木 理恵子, 星野 浩通, 原口 裕希, 高橋 裕二, 浅海 岩生, 遠藤 文雄, 浅川 康吉, 山口 晴保

新潟リハビリテーション大学紀要(2189-0684)1巻1号 Page37-44(2012.12)

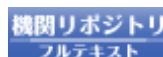
論文種類：原著論文

シソーラス用語：運動障害(予防,リハビリテーション,診断); *運動療法; 事故防止; 神経心理学的検査; 大腿筋; 転倒・転落; *認知障害(予防,リハビリテーション,診断); 歩行; 握力; 介入研究; 身体能力

チェックタグ：ヒト; 高齢者(65~79); 男; 女

Abstract：地域在住高齢者25名を対象に、筋力トレーニングを中心とした転倒予防目的の運動機能向上プログラムを月2回、1回90分、6カ月間提供し、認知機能と運動機能がプログラム開始時と終了時でどのように変化しているか調査した。認知機能の評価には、遂行機能の評価目的に開発された『Yamaguchi Kanji Symbol Substitution Test』を用いた。運動機能の評価項目は[握力][膝伸展筋力][ファンクショナルリーチ][開眼片脚立位][Time Up & Go][5m通常歩行時間]の6項目とした。調査の結果、認知機能の平均値はプログラム開始時と終了時で有意な変化はなかったが、運動機能は[握力]を除く5項目の平均値が有意に改善していた。

2014040235



老健における認知症短期集中リハビリテーション 脳活性化リハビリテーション5原則に基づく介入効果

関根 麻子(老年病研究所介護老人保健施設群馬老人保健センター陽光苑), 永塩 杏奈, 高橋 久美子, 加藤 寛, 高玉 真光, 山口 晴保

Dementia Japan(1342-646X)27巻3号 Page360-366(2013.09)

論文種類 : 原著論文/比較研究

シソーラス用語 : 意欲; *認知症(リハビリテーション, 予後); *リハビリテーション; 後向き研究; 抑うつ; 介護老人保健施設; Mini-Mental State; 長谷川式簡易知能評価スケール; 行動心理学的症候(リハビリテーション, 予後)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 【目的】介護老人保健施設(老健)において認知症短期集中リハビリテーション(リハ)の有効性を示す。【方法】対象は122名の入所者。脳活性化リハ5原則(快・会話・役割・褒める・成功体験)に基づく認知症短期集中リハを個別で週3回、3カ月間実施し、前後評価を行った。【結果】HDS-Rが $14.7 \pm 6.5 \rightarrow 16.5 \pm 7.6$ ($p < 0.001$)と、MMSEが $17.5 \pm 5.6 \rightarrow 18.9 \pm 5.8$ ($p < 0.001$)と有意に向上した。行動・心理症状はDBD $10.8 \pm 10.3 \rightarrow 9.4 \pm 9.3$ へと、意欲はVitality Index $6.9 \pm 1.8 \rightarrow 7.4 \pm 1.9$ と、抑うつはGDS $52.6 \pm 1.4 \rightarrow 2.0 \pm 1.4$ と、いずれの指標も有意に($p < 0.001$)改善した。HDS-R低値(14点以下)群とHDS-R高値群に分けても、ほぼ同様な結果だった。【結論】老健での認知症短期集中リハは、認知機能や意欲の向上、行動・心理症状と抑うつの低減に有効なことを多数例で示した。(著者抄録)

2014007609



38

認知症診療における家族からの聞き取りの重要性

野中 和英(老年病研究所附属病院 認知症疾患医療センター), 高玉 真光, 山口 晴保, 甘利 雅邦, 池田 将樹, 五十嵐 健祐, 中島 智子, 内田 成香, 松本 美江

群馬医学(0285-0656)98号 Page79-81(2013.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 神経症状; *認知症(診断); 病歴聴取; 病識; 家族介護者; 健康度自己評価

チェックタグ : ヒト; 男; 女

Abstract : 平成24年5月~10月までにA認知症センターでアルツハイマー型認知症と診断された患者46名(男性12名、女性34名、平均年齢82歳)とその家族を対象に症状に関する聞き取り調査を行い、患者と家族の調査結果を比較検討した。患者本人の病識では全体の67%が全く病識がなく、病識がある場合も漠然として不完全な内容が多い状況であった。また、家族が認識している症状と患者本人が自覚している症状には大きなずれが生じていた。以上、これらのことから、認知症の特徴を理解し、受診や介護サービスにつなげていくためには家族からの聞き取りが重要であることが考えられた。

2013374508



39

作業療法士が関与する高崎市認知機能低下予防事業の効果検証と事業委託

山口 智晴(群馬大学 大学院保健学研究科), 村井 達彦, 牧 陽子, 都丸 知子, 松本 博美, 佐藤 歩, 桜井 三容子, 山口 晴保

総合リハビリテーション(0386-9822)41巻9号 Page849-855(2013.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; *健康教育; 個人的満足; *認知症(予防,病因); 治療成績; 歩行運動; 作業療法士; 地域リハビリテーション; 公共事業; 介護予防; 認知機能低下(合併症,リハビリテーション,診断); Mini-Mental State

医中誌フリーキーワード : 老研式活動能力指標; 高崎市

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 男; 女

Abstract : [目的]地域リハビリテーションとして歩行習慣化を目指した認知機能低下予防教室で成果を示し,パッケージ化して市町村の事業として全国に普及することを目的とした.このため「高崎ひらめきウォーキング教室」プログラムを刷新し,介入効果を維持しつつ介護保険事業者への委託を行った.[方法]2011年度前半は市職員が中心にモデル事業として,後半は事業者への委託事業として(前半解析対象34名,後半70名),地域の高齢者を対象に週1回90分で12回実施した.作業療法士が脳活性化リハビリテーションの考えを取り入れて歩行習慣化のための教室運営マニュアルを作成し,委託事業者への研修を行った.全12回の教室前後で認知機能,運動機能,生活満足度などの評価を行うとともに,前半教室終了後6ヵ月での歩行習慣などを調査した.また,後半事業終了後に事業者や行政担当者と改善点・簡素化の意見交換を行った.[結果と結語]前半後半ともに山口符号テストと老研式活動能力指標で有意な改善を認めた.後半ではさらにRBANSの10単語遅延再生と言語流暢性,TUG,5m通常歩行速度,片脚立位,主観的生活満足度で有意な改善を認め,介入の有効性を確認した.参加者の多くが歩行を継続し,自身の身体的・心理的な改善や運動の習慣化を報告した.改善版運営マニュアルと評価法のパッケージを完成させ,全国の市町村で活用できる介護予防事業を示すことができた.(著者抄録)

2013337222 , DOI : 10.11477/mf.1552110241



認知症へのmemantine実践的投与 鎮静効果による介護負担軽減と活動性低下などの副作用を減らす減量投与について

山口 晴保(群馬大学 大学院保健学研究科), 牧 陽子, 山口 智晴, 松本 美江, 中島 智子, 野中 和英, 高玉 真光

臨床精神薬理(1343-3474)15巻9号 Page1517-1524(2012.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(薬物療法); *Memantine(毒性・副作用,治療的利用); 質問紙法; 意欲; めまい(化学的誘発); 高血圧(化学的誘発); 食欲不振(化学的誘発); 精神医学的評価尺度; *認知症(薬物療法); 認知症-血管性(薬物療法); 経口投与; *薬物用量反応関係; 治療成績; Lewy小体病(薬物療法); 認知症-前頭側頭型(薬物療法); 家族介護者; アパシー(化学的誘発); Mini-Mental State; *介護負担

チェックタグ : ヒト

Abstract : 【目的】認知症へのmemantine実践的投与。【方法】対象:外来の44名:アルツハイマー病(AD)32名、レビー小体型認知症(DLB)6名、前頭側型認知症(FTD)5名他。投

与:memantineを20mgまで増量中に有害事象が現れた場合は減量/中止。評価:投与開始前と維持量12週後にMMSE、NPI、NPI-Dの評価とアンケート。【結果】1)経緯と有害事象:全体では認知機能・意欲の低下、興奮、胃腸障害、血圧上昇などで9例が中止、10例が10～15mgの減量投与。2)評価結果:全体(n=25)では12週後にMMSEに有意差なし。NPIはDLB/FTD(n=6)で改善傾向を示したが全体(n=22)では有意差なし。NPI-Dを指標とした介護負担は全体で有意に低下(n=22、p=0.045)。投与開始前MMSE得点と各指標変化点数との間に相関なし。3)介護家族アンケート:全体(n=28)、とくにDLB/FTD(n=9)では、穏やかさ、イライラ、不安などで改善が悪化を上回った。【まとめ】ADでは鎮静作用があり、有害事象による中止や減量投与が目立った。DLB(10mg減量投与)とFTDでは易怒性低減と介護負担の低減が期待された。20mgにこだわらず、症例ごとに適量を投与することで、活動性低下などの有害事象を減らす工夫が必要。(著者抄録)

2012334820



41

高齢者の遂行機能評価尺度としての山口符号テストの開発 地域での認知症予防介入に向けて

山口 智晴(群馬大学 大学院保健学研究科), 牧 陽子, 海保 歩, 荒木 祐美, 村井 達彦, 亀ヶ谷 忠彦, 山上 徹也, 田中 聡一, 山口 晴保

老年精神医学雑誌(0915-6305)22巻5号 Page587-594(2011.05)

論文種類: 原著論文

シソーラス用語: Trail Making検査; Wechsler知能検査; *認知症(予防,合併症,診断); *認知障害(病因,予防,診断); 介入研究; 教育程度; 結果再現性; 年齢因子; *介護予防; Mini-Mental State

チェックタグ: ヒト; 高齢者(65～79); 男; 女

Abstract: 今回、高齢者の遂行機能評価指標として用いることを目的に、ウェクスラー符号問題(Wechsler Digit Symbol Substitution Test;WDSST)と類似した、山口符号テスト(Yamaguchi Kanji Symbol Substitution Test;YKSST)を作成した。WDSSTとの併存的妥当性の検討では有意な相関($r=0.820$ 、 $p<0.001$ 、 $n=170$)を認めた。YKSSTの再テスト再現性は級内相関係数 $ICC(1,1)=0.836$ 、 $p<0.001$ ($n=74$)と良好で、WDSST($ICC(1,1)=0.753$ 、 $p<0.001$ 、 $n=74$)より再現性が高い結果が得られた。YKSSTの得点は年齢による影響を強く受け($r=-0.403$ 、 $n=170$)、60歳代後半($n=57$)で 51.8 ± 10.6 点、70歳代前半($n=71$)で 45.8 ± 9.5 点、70歳代後半($n=42$)では 42.1 ± 11.1 点であったが、教育年数はわずかな影響であった($r=0.261$)。YKSSTの健常(CDR0)と軽度認知障害(CDR0.5)の弁別的妥当性については、カットオフを44/45点とすることで感度84%、特異度57%で弁別することが可能であった。また、再テストでの学習効果を低減する目的で作成した3バージョンのうち、今回平行性が確認された2バージョンを、地域介護予防事業などでの評価指標として活用されるよう、無料でダウンロードできるようにした(<http://orahoo.com/yamaguchi-h/>)。(著者抄録)

2011250923



地域在住高齢者における「楽しさ」の因子構造について

矢嶋 昌英(群馬大学 大学院医学系研究科保健学専攻), 浅川 康吉, 山口 晴保
理学療法科学(1341-1667)26巻1号 Page95-99(2011.02)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; 因子分析; 健康への態度; 個人的満足; *生活の質; レクリエーション; *高齢者保健医療サービス

医中誌フリーキーワード : 社会関係

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : [目的]高齢者の「楽しさ」を構成する因子を明らかにすることを目的とした。[対象]群馬県前橋市敷島及び吉岡町老人福祉センターの利用者165名とした。[方法]独自に作成した調査票を用い、性別、年齢、「楽しみ」の有無、「楽しい理由」について個別面接により聴取した。「楽しみ」の有無を尋ね、「有る」と回答された方には、その内容および「楽しい理由」を聴取した。「楽しい理由」はTaxonomy of Human Goals(人間が持つ目標の分類)を参照し、「はい」と「いいえ」の2件法で回答を得た。「楽しい理由」としてあげられた項目について探索的因子分析を行い、「楽しさ」を構成する項目を抽出した。[結果]楽しみがある人は159名(96.4%)であった。主な内容はカラオケ、センターに来ること、会話、温泉、手芸であった。「楽しい理由」として抽出されたのは3因子11項目であった。それぞれ、第1因子は探究・理解・知的創造性・熟達・課題創造性であり「認知-課題」、第2因子は個性・自己決定・優越であり「自己主張的社会関係」、第3因子は平穏・幸福・身体的健康であり「情動」と命名した。なお、11項目のCronbach α 係数は0.73であった。[結語]地域在住高齢者の「楽しさ」は、「認知-課題」、「自己主張的社会関係」、「情動」の3因子構造を示し、抽出された11項目で評価できることが示唆された。(著者抄録)

2011207109 , DOI : 10.1589/rika.26.95



43

高齢者の6基本表情に対する認識能力の評価 意味的分類課題と知覚的照合課題による検討

熊田 真宙(比治山大学 大学院現代文化研究科), 牧 陽子, 山口 晴保, 吉田 弘司

老年精神医学雑誌(0915-6305)22巻3号 Page325-332(2011.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 怒り; 恐怖; 光刺激; 感覚閾値; 憎しみ; *認知; 悲嘆; *表情; 分類; 高齢者

医中誌フリーキーワード : 驚愕

チェックタグ : ヒト; 青年期(13~18); 成人(19~44); 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 本研究では、2つの課題条件下で、高齢者と若者の6基本表情(喜び、悲しみ、驚き、怒り、嫌悪、恐怖)に対する表情識別閾を測定した。課題のひとつは、刺激表情を情動を意味する言語ラベルに分類する課題であり(意味的分類課題)、もう1つは情動を表す画像と照合する課題であった(知覚的照合課題)。実験の結果、喜びを除く5つの益情において有意な加齢効果がみられた。また、加齢効果は知覚的照合課題でもみられたことから、加齢は表情認識の初期段階に影響していると考えられた。2つの課題の成績を比較すると、嫌悪と恐怖では高齢者も若者も意味的分類課題の閾値が高く、知覚された表情の意味づけが

困難であることがわかった。また、高齢者では怒りでも同様の傾向がみられた。その一方、高齢者は喜びでは意味的分類のほうが簡単であった。意味に直接アクセスしていることが、喜び表情の認識が老化しないことと関連しているのではないかと考えられた。(著者抄録)

2011174352



44

群馬県沼田市の「介護予防サポーター」の特性と募集方法の検討

深澤 昌子(群馬大学 大学院医学系研究科保健学専攻理学・作業療法学分野), 浅川 康吉, 山口 晴保

保健の科学(0018-3342)52巻9号 Page641-645(2010.09)

論文種類 : 原著論文/比較研究

シソーラス用語 : 質問紙法; *介護者; ボランティア; 余暇活動; *地域社会ネットワーク; *介護予防

医中誌フリーキーワード : 外出; 老研式活動能力指標; 沼田市

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44); 中年(45~64); 高齢者(65~79); 男; 女

Abstract : 群馬県が2006年度から実施している、地域の住民ボランティアによる「介護予防サポーター制度」における介護予防サポーター(サポーター)の特性などを明らかにすることを目的に、沼田市の2006年度のサポーター研修参加者を対象にアンケート調査を行い、86件の回答のうち女性76名の回答を分析した。その結果、サポーターは老研式活動能力指標の「バスや電車を使って一人で外出できますか」「年金などの書類が書けますか」などに100%近くが対応でき、近所づきあいができる人が多く、身近に介護予防をさせたい人を半数以上が抱えていた。

2010322773



45

地域における認知症発症・進行予防プログラムとしての脳活性化リハビリテーションの有効性

山上 徹也(高崎健康福祉大学 保健医療学部理学療法学科), 藤田 久美, 小岩井 あさみ, 関口 尚美, 鍋木 早苗, 梅澤 亜紀, 米田 真一, 山口 晴保

老年精神医学雑誌(0915-6305)21巻8号 Page893-898(2010.08)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; 自己概念; *認知症(予防,病因); *脳; *リハビリテーション; 介護; 介入研究; 消費者行動; 介護予防; アパシー(病因,リハビリテーション,精神療法); 認知機能低下(合併症,リハビリテーション,精神療法); Mini-Mental State; 介護負担

医中誌フリーキーワード : 回想法

チェックタグ : ヒト; 中年(45~64); 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 快刺激や役割を演じるプログラムである脳活性化リハビリテーションが認知症の発症・進行予防に有効であるか検討した。方法:在宅生活継続中で軽度認知障害から軽度認知症が疑われる高齢者12人を対象に、介護予防サポーター(地域のボランティアスタッフ)と協力し、回想と作業を合わせた作業回想法と特技の披露を組み合わせて脳活性化リハ

ビリテーションを実施した。その効果は、認知機能、生活能力、アパシー、自尊心、生活アンケート等から総合的に評価した。また終了時に満足度や生活変化の有無についてアンケートを実施した。結果:統計学的には介入前後の比較でやる気スコア($p < 0.01$)と老研式活動能力指標($p < 0.05$)が有意に改善した。また生活アンケートから、会話や笑顔の増加、「新しいことへの関心」に改善がみられた。結論:脳活性化リハビリテーションにより認知症発症前後のアパシーや生活障害の改善がみられ、認知症の発症・進行予防に有効である可能性が示された。(著者抄録)

2010308076



46

認知症高齢者の排泄障害に対する時間排尿誘導の有効例

山本 晋史(群馬県医師会沢渡温泉病院), 山口 晴保

理学療法群馬(0917-5474)20号 Page49-53(2009.03)

論文種類: 原著論文/症例報告

シソーラス用語: *認知症(合併症,リハビリテーション); *尿失禁(リハビリテーション,予後,合併症); 排尿; リハビリテーション; 時間因子; 高齢者評価; *排泄ケア

チェックタグ: ヒト; 高齢者(80~); 女

Abstract: 80歳代女。くも膜下出血とTIAの既往歴があり、運動麻痺は軽度であるが車イス座位では体幹が左に偏倚している。普段からトイレで排泄を行っておらず(オムツ使用)、介入前評価において時間排尿誘導が可能であった。3週間の介入を実施した。介入期間中は1日おきに週3日の時間排尿誘導を実施し、週の残りの4日間は通常の排泄(日中6回のオムツ交換)を行った。症例の身体状況に合わせて介助し、次の動作を確認する声かけを出来る限り同じ場面・タイミングで行うようにした。また、動作が上手に行えたときには褒める等の増強法を併用した。トイレ動作能力と生活状況の一部に改善がみられ、介助者を含めた周辺環境を一定にし、その中でトイレ動作の正しい方法を繰り返し行うことで認知症高齢者の動作能力が向上することが示された。

2009317554



47

地域在住高齢者向けSelf-paced Resistance Training(自己裁量型筋力トレーニング)における参加者特性とトレーニング結果に及ぼす影響 住民主導型介護予防事業「鬼石モデル」初級コースより

浅川 康吉(群馬大学 医学部保健学科理学療法学専攻), 遠藤 文雄, 山口 晴保, 高橋 龍太郎
理学療法学(0289-3770)35巻5号 Page229-236(2008.08)

論文種類: 原著論文/比較研究

シソーラス用語: 自己管理; 性因子; 高齢者保健医療サービス; 介護; 年齢因子; 高齢者評価; 筋力; *レジスタンストレーニング; *介護予防; 身体能力

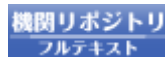
医中誌フリーキーワード: 老研式活動能力指標

チェックタグ: ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract: 本研究ではSelf-paced Resistance Training(自己裁量型筋力トレーニング)を用いた介護予防事業「鬼石モデル」の導入期(3カ月)について参加者特性とトレーニング結

果に及ぼす影響を分析した。対象は「鬼石モデル」に申込みをした地域在住高齢者564名で、このうち週1回程度のトレーニングを継続した者を参加者(n=380)、継続できなかった者を非参加者(n=184)とした。参加者と非参加者とを比較した結果、参加者の特性として、女性・前期高齢者では膝伸展筋力が大きいこと、男性・前期高齢者では定期的に通院している者が多いこと、男性・後期高齢者では年齢が若く、世帯員数が少ないことが示唆された。女性・後期高齢者では両者の差を認めなかった。「鬼石モデル」の参加者特性は性、年代で異なると考えられる。参加者のトレーニング前後の握力、膝伸展筋力、開眼片脚起立時間およびファンクショナルリーチの変化量は、トレーニング参加前の水準が低いほど大きかった。運動機能が低い者ほどSelf-paced Resistance Trainingによる運動機能の向上が期待できると考えられる。(著者抄録)

2008306805 , DOI : 10.15063/rigaku.KJ00005028749



48

老化に伴う脳βアミロイド沈着を運動で効率的に予防する方法の検討

山口 晴保(群馬大学 医学部保健学科)

ライフサイエンス振興財団年報22巻 Page3-5(2008.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : *Amyloid Beta Peptides; ELISA; 加齢; *身体運動; ソフトウェア; *脳疾患-代謝性(予防,実験的); トランスジェニックマウス; 免疫組織化学; アミロイド斑

チェックタグ : マウス; 動物

Abstract : 加齢に伴って脳βアミロイド沈着をきたすように遺伝子操作したトランスジェニックマウスを用いて、生活環境の脳βアミロイド沈着に及ぼす影響を検討した。Tg2576トランスジェニックマウス(Taconic)を用いた。生後13カ月齢から2群に分け、I群は通常の飼育方法で育て、豊かな環境(EE)群は、飼育箱を広くし、チューブのトンネルや廻り車などの遊具を入れて、遊び回ることで活動性が高まるように環境設定した。免疫組織化学では豊かなEE群でβアミロイド沈着が有意に多量であったが、ELISAでは有意差は認めなかった。少なくとも、豊かな環境が脳βアミロイド沈着を抑制するという結果は得られず、楽しい運動が脳βアミロイド沈着を抑制することを示せなかった。

2008208298



49

脳活性化リハビリテーションによる認知症の進行予防の可能性 長期介入例の検討

山上 徹也(伊勢崎福島病院 リハビリテーション科), 細井 順子, 妹尾 陽子, 山口 晴保

老年精神医学雑誌(0915-6305)18巻10号 Page1105-1112(2007.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(合併症); 質問紙法; 作業療法; 身体運動; *認知症(病因,リハビリテーション,診断); *リハビリテーション; 患者の満足度; 家族教育; Mini-Mental State

医中誌フリーキーワード : Kohsテスト; 回想法

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 脳活性化リハビリテーションの快刺激プログラムが、認知症高齢者の意欲・生

きがいを創出し、進行予防に有効であるか検討した。方法:もの忘れ外来に通院中の認知症高齢者9人を対象に、脳活性化リハビリテーションを実施し、その効果を認知機能、生活場面、感情機能から総合的に評価した。さらに介入期間が15ヵ月以上の5人について詳細な分析を行い、満足度や変化の有無についてアンケートを実施した。結果:統計学的には開始前と比較して介入4~5ヵ月後、7~10ヵ月後、15~20ヵ月後のどの時点でも各項目の有意な悪化はなく、在宅生活を維持できていた。長期介入者5人については、2人で症状が維持・改善し、3人で症状が進行した。一方、アンケートでは、対象者・家族ともに満足度は高く、ポジティブな反応がみられた。結論:脳活性化リハビリテーションにより認知症があっても家族と楽しく生活でき、進行予防に役立つ可能性が示された。(著者抄録)

2008058014



50

脳卒中者の参加に影響を与える要因

菊池 良太(日新病院), 臼田 滋, 山口 晴保

理学療法群馬(0917-5474)18号 Page10-15(2007.03)

論文種類: 原著論文/比較研究

シソーラス用語: *移動運動; *意欲; *行動; デイケア; *日常生活活動; 余暇活動; *脳卒中(診断); *アパシー

医中誌フリーキーワード: 外出; *自発性(心理学); やる気

チェックタグ: ヒト; 中年(45~64); 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract: 質問の簡潔さを重視して開発されたCommunity Integration

Questionnaire(CIQ)を参加の指標として用いて脳卒中者の参加の現状を把握するとともに、日常生活活動(ADL)、移動能力、本人の自発性・やる気との関連を明らかにした。外来通院中または通所リハビリテーション利用中の脳卒中者56例を対象とした。比較的外出頻度は保たれていた一方で、家事は6割以上が行っておらず、特に男性において行っている者が少なかった。参加には年齢、日常生活活動、移動能力、自発性との間に有意な相関関係を認め、参加に対する支援を考える上では、本人の性別、年齢など社会的役割だけでなく、日常生活活動、移動能力、自発性といった多要因を検討した包括的なアプローチが必要であった。参加の程度が低くても、日常生活活動の自立度が高い者もいた。

2007340478



51

アミロイド代謝異常と認知機能障害

毛利 彰宏(名古屋大学 大学院医学系研究科医療薬学講座), 野田 幸裕, 岩田 修永, 黄 樹明, 中島 龍一, 末元 隆寛, 樋口 真人, Staufenbiel Matthias, 小久保 秀子, 山口 晴保, 西道 隆臣, 鍋島 俊隆

分子精神医学(1345-9082)7巻2号 Page169-172(2007.04)

論文種類: 原著論文

シソーラス用語: Amyloid Beta Peptides; ELISA; *Nepriylisin(欠損・欠乏); 海馬; シナプス伝達; *認知障害(実験的, 病理学); トランスジェニックマウス; *Amyloid Beta-Protein Precursor; 長期増強; ノックアウトマウス; 迷路学習

チェックタグ : マウス; 動物

Abstract : アミロイドβペプチド(Aβ)の代謝酵素であるネプリライシンの活性を低下させることによって脳内Aβが蓄積し、これにより神経細胞の機能が障害されるとの仮説をたて、検証を行った。Aβ前駆体蛋白質トランスジェニックマウス(APP+)とネプリライシン欠損マウス(NEP-/-)を交配してAPP+×NEP-/-マウスを作製し、脳内Aβの蓄積、シナプス可塑性、学習機能などについて生化学的・行動学的手法を用いて検討した。結果、ネプリライシンの活性低下はシナプスとアクソンにおけるAβオリゴマーの増加を引き起こし、シナプス可塑性を低下させ、認知機能の障害をもたらすことが示唆された。

2007236586



52

脳の老化 老化に伴うβアミロイド沈着と細胞膜脂質ラフトの関係究明

山口 晴保(群馬大学 医学部保健学科)

ライフサイエンス振興財団年報20巻 Page7-9(2006.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病; *Amyloid Beta Peptides; 免疫学的電子顕微鏡検査法; *加齢; 脳; 免疫組織化学; Amyloid Beta-Protein Precursor; シナプス前神経終末; *細胞膜マイクロドメイン; アミロイド斑

チェックタグ : ヒト; マウス; 動物

Abstract : 細胞膜脂質ラフトが加齢に伴う脳βアミロイド沈着開始とどのように関わっているかという観点から,老化に伴う脂質代謝異常から脳βアミロイド沈着とつながる機構を検討した.脳βアミロイド沈着をきたす家族性アルツハイマー病変異を導入したAPPトランスジェニックマウス(Tg2576)を用いて,脳βアミロイド沈着と脂質ラフトの関係を検討した.さらに最近注目されているβタンパクオリゴマーと脂質ラフトとの関係も検討した.脂質ラフトの一部ではあるがβタンパクとの共局在を示すことに成功した.βタンパクオリゴマーが痴呆の原因となるシナプス機能の障害に関わっている可能性が示唆された.脂質ラフトはβタンパクが重合する場であると考えられるが,オリゴマーはラフトと関係なく軸索終末に蓄積する可能性が示唆された

2006272298



53

在宅高齢者における転倒経験と転倒予防対策の実施状況との関係

川上 景子(やはたクリニックデイケアセンターわかば), 浅川 康吉, 遠藤 文雄, 山口 晴保
理学療法群馬(0917-5474)16号 Page15-19(2005.03)

論文種類 : 原著論文/比較研究

シソーラス用語 : 事故防止; *転倒・転落; 日常生活活動; 姿勢バランス; 在宅患者; *予防的保健医療サービス; 高齢者評価; 自己効力感; 抑うつ(診断); 筋力

医中誌フリーキーワード : 自己評価式抑うつ尺度; 老研式活動能力指標

チェックタグ : ヒト; 中年(45~64); 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 在宅高齢者の転倒予防対策の実施状況とその関連要因を検討した.転倒予防教室の参加者231例を対象に,転ばないための心がけの有無とその関連要因のデータを収集し

た.転倒予防対策の実施率は58.6%であった.非転倒心がけ有り群,非転倒心がけなし群,転倒心がけ有り群,転倒心がけなし群で有意な差を認めたのはGDS,FRおよび体重比膝伸展筋力で,転倒予防対策の実施率と転倒歴とは関連しなかった.実施内容は運動や行動・教育面での対策といった内因対策に偏っていた.転倒予防対策は高齢者自身がバランスや下肢筋力の衰えを認識してから実施される実態があると思われた

2005277683



54

地域リハビリテーション広域支援センターの活動状況

阿部 真也(渋川中央リハビリ病院), 山口 晴保

総合リハビリテーション(0386-9822)33巻3号 Page271-275(2005.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 広報; バリアフリー住宅; 紹介と相談; 多機関医療協力システム; *地域保健センター; 地域社会ネットワーク; *地域リハビリテーション; 介護・福祉用具

チェックタグ : ヒト

Abstract : 地域に密着した活動が期待される地域リハビリテーション広域支援センター(広支センター)の活動状況について,アンケート調査を実施した.全国の広支センター171ヶ所から,リハビリテーション施設の共同利用を実施,施設に出向いてリハビリテーション従事者への援助を実施,保健所等,のいずれかに当てはまる合計102ヶ所に対し,郵送によるアンケート調査を実施した.58ヶ所から有効な回答が得られた.事業の中心的スタッフはPT,OTであった.相談事業においても,最も多い相談内容は「講師派遣について」であった.各事業のなかで,リハビリテーション施設の共同利用事業の実働施設は5.2%に過ぎず,ほとんど行われていなかった.同事業では,報酬や事故への対応という問題があり,実施は困難な状況にあると思われた

2005166786 , DOI : 10.11477/mf.1552100065



55

正座の不自由が地域在住高齢者の日常生活活動に及ぼす影響

山本 美幸(本島総合病院 リハビリテーション科), 浅川 康吉, 山口 晴保

理学療法科学(1341-1667)19巻4号 Page281-284(2004.11)

論文種類 : 原著論文/比較研究

シソーラス用語 : 質問紙法; 健康状態指標; 姿勢; 日常生活活動; 高齢者; 高齢者評価; *座位

医中誌フリーキーワード : *手段的ADL; 老研式活動能力指標

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : 群馬県鬼石町の転倒予防教室に参加した高齢者173名を対象に,正座の不自由に関する質問紙調査および老研式活動能力指標による評価を実施した.有効回答者136名のうち「正座をするさい不自由を感じる」と答えたのは43名(31.6%)で,不自由の内容は「膝が痛い」など疼痛に関するものが多かった.不自由を感じている群は感じていない群に比べて老研式活動能力指標の合計点およびその下位尺度である手段的自立の得点が有意に低く,

冠婚葬祭や地域行事への参加を遠慮している人が多かった
2005128826 , DOI : 10.1589/rika.19.281



56

理学療法教育における客観的臨床能力試験(OSCE)の開発と試行

山路 雄彦(群馬大学 医学部保健学科理学療法学専攻), 渡邊 純, 浅川 康吉, 松田 祐一, 臼田 滋, 遠藤 文雄, 内山 靖, 坂本 雅昭, 山口 晴保, 中澤 次夫, 茂原 重雄
理学療法学(0289-3770)31巻6号 Page348-358(2004.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 医学教育; 人間関係; 評価研究; *理学療法とリハビリテーション医学; 保健医療職教育機関の学生; 模擬患者; 臨床能力; 理学療法士

医中誌フリーキーワード : *客観的臨床能力試験(OSCE); 教員-学生関係

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44)

Abstract : 理学療法教育における学生の臨床技能の到達度を評価し,学習の支援体制を構築するために客観的臨床能力試験(OSCE)を実施することとした.理学療法におけるOSCEの開発とその試行結果の分析を行うとともに効果的な実習教育の方法を模索した.4年次総合臨床実習を控えた学生18名に理学療法版OSCEを実施した.医療面接,リスク管理,基本的な検査測定の間節可動域,筋力,バランスに関する課題を設定した.理学療法版OSCEは,臨床能力を客観的に評価することが可能であり,学生の主体的な学習態度を引き出すことができたことから,教育においても有用であると考えられた

2005064354 , DOI : 10.15063/rigaku.KJ00003654240



57

痴呆発症期における視覚入力認知機能テストの得点低下とその背景

山上 徹也(群馬大学 医学部 保健学科), 山口 晴保
老年精神医学雑誌(0915-6305)14巻9号 Page1125-1132(2003.09)

論文種類 : 原著論文/比較研究

シソーラス用語 : *Alzheimer病(診断); 感度と特異度; 視覚; 神経心理学的検査; 精神医学的評価尺度; 知能検査; 縦断研究; 観察; 介護福祉士

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~79); 高齢者(80~); 男; 女

Abstract : アルツハイマー病(AD)の発症期診断を目的に,健常から軽度痴呆の高齢者を対象にClinical Dementia Rating(CDR)と神経心理学テストを実施し,CDR 0.5レベルの特徴を検討した.横断調査よりCDR 0.5では視覚対連合,言語対連合,Kohsテストが有意に低下し,これらのテストを組み合わせるとCDR 0.5の検出感度・特異性が高かった.縦断調査では,かなひろいテスト,Kohsテストが低下してくると痴呆発症の可能性が高かった.編み物等の趣味活動が痴呆の進行を緩める可能性が示された.よって,CDR 0.5の段階で,視覚を媒体とする認知テストの得点が軽度低下しており,そのようなケースでは痴呆を発症しやすく,毎日の趣味活動が痴呆の進行を遅らせる可能性が示唆された

2004084284



在宅重症心身障害児・者のニーズ調査をもとにした健康・生活・介護評価表(HLC scale)の開発

会田 茂男(群馬大学 医学部 保健学科), 矢野 亨, 山口 晴保

総合リハビリテーション(0386-9822)31巻9号 Page863-869(2003.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 質問紙法; 健康状態指標; 在宅介護; 生活の質; ローカス・オブ・コントロール; 保健医療サービスの必要と要求; 保健行動; *重症心身障害者; 評価基準

医中誌フリーキーワード : Health Locus of Control

チェックタグ : ヒト; 幼児(2~5); 小児(6~12); 青年期(13~18); 成人(19~44); 男; 女

Abstract : 家族及び支援者(リハビリテーションスタッフなど)の考える在宅重症児・者のニーズに根ざした客観的QOL様の評価尺度を開発し,これを83例に施行した.HLC scale総合点は正規分布を示し,家族の考える子供の満足度とも相関があり,記入家族からも重症児・者の評価表として適切であった.HLC scaleの20問は内的一貫性をもち,再検査信頼性も高く,年齢や重症度にあまり左右されずに使用できる点も優れていた

2004042386 , DOI : 10.11477/mf.1552100888



Kohs立方体組み合わせテストはmild cognitive impairmentのスクリーニングに使えるか MMS・かなひろいテストとの比較検討

山上 徹也(群馬大学 医 保健), 田井中 みはる, 松田 祐一, 山口 晴保

老年精神医学雑誌(0915-6305)12巻6号 Page671-678(2001.06)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 集団検診; 認知症; 認知障害(診断); Mini-Mental State; 長谷川式簡易知能評価スケール

医中誌フリーキーワード : Kohsテスト

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 痴呆発症には到っていない高齢者(MCI)36名を対象に,Kohs立法組合せテスト(Kohsテスト),簡易知能検査,かなひろいテストの有用性や,それぞれのテストの特性を調べた.MCIのスクリーニング検査として,Kohsテストはアクティビティの高い趣味を持つ事,かなひろいテストは執筆に関係した趣味を持つ事や高学歴で高得点の傾向にあった.両テストとも低値群は活動性が低かった事から,高齢者に対しては,かなひろいテストよりもKohsテストのほうが容易で,有用である可能性が示唆された

2002042416



予後が良好であったヘルペス脳炎の5症例

岡本 一真(群馬大学 医 神経内科), 妹尾 陽子, 酒井 保治郎, 新井 正史, 山内 洋子, 柳沢 孝之, 山口 晴保

Journal of Clinical Rehabilitation(0918-5259)9巻11号 Page1136-1139(2000.11)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 予後; 脳炎-ウイルス性(予後)

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44); 男; 女

Abstract : 単純ヘルペス脳炎は急性ウイルス性脳炎のうちで最も頻度が高く,発熱や髄膜刺激症状に加え,意識障害,痙攣等の神経症状を特徴とする重篤な疾患である.最近では迅速な診断や早期の抗ウイルス薬の投与等によりほとんど後遺症を残さず改善する症例もみられるようになってきている.著者らが経験した単純ヘルペス脳炎5症例(27歳男性・42歳男性・20歳男性・29歳男性・38歳女性)中38歳女性症例を除く4症例においてリハビリテーション(リハ)を施行した.その結果,全例社会復帰ができたので,その臨床経過を呈示し,リハ内容等について考察を加え報告した

2001066052



61

脳老化:アミロイドβ蛋白によるタウのリン酸化と神経細胞死の機構(第2報)

山口 晴保(群馬大学 医 保健), 高島 明彦, 杉原 志朗

代謝異常治療研究基金研究業績集(0388-5224)26巻 Page86-89(1999.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Amyloid Beta Peptides(薬理学); 加齢; タンパク質; 認知症; ニューロン; 脳(薬物影響); リン酸化; Tau Proteins; 細胞死; Presenilins; Glycogen Synthase Kinase 3 Beta

チェックタグ : ヒト

Abstract : タウ異常リン酸化は高度のβアミロイド沈着に引き続いて生じることを示した.このタウリン酸化にはglycogen syntase kinase(GSK)-3β等のkinaseが関与している.家族性アルツハイマー病の原因遺伝子であるpresenillin-1(PS-1)はこのタウ及びGSK-3βと結合し,タウのリン酸化に関与している

1999244149



62

群馬大学医学部附属病院リハビリテーション部の診療実績と問題点

大澤 晴美(群馬大学医学部附属病院 リハ), 本間 美智子, 三浦 智未, 山路 雄彦, 臼田 滋, 渡邊 純, 岩崎 清隆, 山勝 裕久, 山口 晴保

群馬大学医学部保健学科紀要(1343-4179)19巻 Page47-50(1999.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 医科大学; 大学病院; リハビリテーション

チェックタグ : ヒト

Abstract : 対象はこの間にリハを施行した全377症例である.リハ部への需要は高まっており,総依頼件数は開設時155件/月であったものが,最高652件/月と約4倍に増加した.特に入院患者の依頼増加が著明であった.しかし人員不足の為,各診療科からの依頼に十分対応できていないのが現状で,比較的多い廃用性症候群の予防にも関われないでいる.又,大学病院でありながら学生の臨床実習の場としても機能していない.今後は人員の確保が最重要である

1999201522

63

事象関連電位P300測定時の運動関連脳電位の影響(第1報)

酒井 保治郎(群馬大学 医 保健), 都丸 正, 山口 晴保, 岡本 一真

群馬大学医学部保健学科紀要(1343-4179)19巻 Page59-64(1999.03)

論文種類 : 原著論文**シソーラス用語** : 脳波記録法; 事象関連電位P300**チェックタグ** : ヒト

Abstract : オドボール課題としてよく使用される選択反応時間課題では,事象関連電位測定時の波形に運動関連脳電位が重畳していることを各々を同時に測定することにより明らかにした.この重畳する運動関連脳電位の事象関連電位への影響を検討する為のシミュレーションプログラムを開発した.運動関連脳電位の重畳がP300振幅を小さくすること(通常5~6mVの減少),ならびにP300潜時にも最大数ms程度の影響を及ぼすことがわかった.本プログラムは選択反応時間課題で測定した事象関連電位において運動関連脳電位の影響を調べるのに有効であった

1999188978

64

MRIによるMotor Impersistenceの責任病巣の検討

酒井 保治郎(群馬大学 医 保健), 山口 晴保, 中村 多美子, 桜井 篤志, 平井 俊策

群馬大学医学部保健学科紀要(1343-4179)18巻 Page49-53(1998.03)

論文種類 : 原著論文**シソーラス用語** : 運動障害(画像診断); MRI**チェックタグ** : ヒト

Abstract : 脳血管障害,脳炎等の脳の局所病変で入院した220症例を対象に,motor impersistence(MI)の有無を調べた.MIは9例で陽性であったが,全て脳梗塞の症例であった.これらは全体の約4.1%,脳血管障害の約5.6%に相当した.外来のMI陽性の脳出血後遺症の1症例を加え,10症例のMRI画像からMIの責任病巣を検討した.責任病変は劣位半球のBrodmannの第6,8野の中で,中大脳動脈の灌流域で,しかも前大脳動脈灌流域に近い領域の皮質ないし皮質下白質であったが,主体は皮質下白質と考えられた.MIの発現はこの部位での神経線維のdisconnectionが関与している可能性が示された

1999182913

65

脳老化 アミロイドβ蛋白によるタウのリン酸化と神経細胞死の機構(第1報)

山口 晴保(群馬大学 医 保健), 高島 明彦, 石黒 幸一, 他

代謝異常治療研究基金研究業績集(0388-5224)25巻 Page91-95(1998.01)

論文種類 : 原著論文**シソーラス用語** : Amyloid Beta Peptides(薬理学); 加齢; ニューロン; 脳; リン酸化; Tau Proteins(薬物影響); 細胞死

Abstract : タウの異常リン酸化を試験管内で引き起こす各種酵素に対する抗体を作製し, アルツハイマー型痴呆脳でのタウ異常リン酸化に実際に関与しているのはtau protein kinase(TPK)I/glycogen synthase kinase(GSK)- β とcdk5(TPK II)である可能性が高いことを示した

1998194841



66

脳βアミロイド沈着促進因子の検討 40・50代での脳βアミロイド沈着出現頻度,分布とその要因

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 杉原 志朗, 中里 洋一

代謝異常治療研究基金研究業績集(0388-5224)23巻 Page113-118(1996.11)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Amyloid Beta Peptides; 脳(病理学)

チェックタグ : ヒト

Abstract : 悪性腫瘍例を中心に,30, 40, 50代の剖検脳のβアミロイド沈着を検討し,老化に伴い早期(40代)から前頭葉に脳βアミロイド沈着が始まることを示した.又,悪性腫瘍例でアミロイド沈着促進因子を検討し,脳への放射線照射がβアミロイド沈着の危険因子である可能性を示した

1997041038



67

廃用による痴呆化 日常生活活動(ADL)が高齢者の知的能力維持に果たす役割の検討

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 高橋 えりか, 丸岡 君子, 他

老年精神医学雑誌(0915-6305)6巻2号 Page195-201(1995.02)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 知能; 認知症; 日常生活活動; 廃用症候群

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 特別養護老人ホーム入所老人を対象にADLと知的機能を6年間に3回継続調査した。1) ADLレベルが初回から低値の「寝たきり」群では知的能力低下が大きい,2) ADLレベルが6年間で低下した群でも知的能力低下が大きい,3) ADLレベルが保たれた群では知的能力の低下が少ない,4)個々のケースを検討すると,骨折などでADLレベルが低下した老人で知的能力の低下がみられた。また,ADLが低下した群は保たれた群よりもより高齢であった

1995185209



68

特別養護老人ホーム入所老人の知的能力と生活能力の経時変化

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 鳥屋 幸子, 大森 庸子, 他

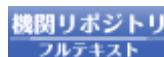
群馬大学医療技術短期大学部紀要(0389-7540)14巻 Page121-124(1994.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : ライフスタイル; 知能; 老人ホーム

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

1995116804



69

脳と神経の老化 生化学的にみた神経系の老化 沈着物質

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

Clinical Neuroscience(0289-0585)11巻9号 Page976-978(1993.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Amyloid Beta Peptides; Lipofuscin; 加齢; 中間径フィラメント; 脳化学; Tau Proteins

1994228881



70

Alzheimer型痴呆の免疫組織化学:βアミロイドを中心に

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

金沢医科大学雑誌(0385-5759)17巻3号 Page351-352(1992.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); Amyloid Beta Peptides; 認知症; 免疫組織化学

チェックタグ : ヒト

1994114139



71

特別養護老人ホーム入所老人の寝たきり化の原因調査 痴呆の進行を防ぐために

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 清水 一, 吉川 ひろみ, 他

総合リハビリテーション(0386-9822)20巻11号 Page1171-1175(1992.11)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 認知症(予防); 老人ホーム; 虚弱高齢者

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 特養入所老人131人を対象に,病歴,神経所見,知能,ADLなどを検査し,老人の知的機能維持に必要な因子を検討した。移動能力からみたADL水準と知能水準を検討すると介助坐位群に比べて終日臥床群で知能が著しく低下していた。また歩行不能となった原因を調査すると,入所前に歩行不能となった群では脳血管障害が最も多く骨折などの運動器疾患がこれに次いでいた。しかし入所後歩行不能となった群では痴呆などに伴う自発性の低下や内科疾患による長期臥床などの廃用症候群が半数を占めており,脳血管障害は少なかった

1994085873 , DOI : 10.11477/mf.1552107233



72

老年期痴呆における最近の知見 アミロイドβ蛋白前駆体に関する新しい知見

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

老年期痴呆(0914-7691)7巻1号 Page35-43(1993.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 認知症; Amyloid Beta-Protein Precursor

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

1994006930



73

老年期痴呆の成因と治療 アルツハイマー病とアミロイドタンパク 最近の知見

瓦林 毅(群馬大学 神経内科), 山口 晴保

Dementia(0913-6835)7巻1号 Page20-29(1993.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病; Amyloid Beta Peptides; Amyloid Beta-Protein Precursor

1993175441



74

老年期痴呆の成因 トランスジェニックマウスからみたアルツハイマー型痴呆へのアプローチ

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

老年期痴呆(0914-7691)6巻4号 Page69-75(1992.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病; トランスジェニックマウス

チェックタグ : マウス; 動物

1993167417



75

グリアと老人斑

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

Dementia(0913-6835)6巻4号 Page379-387(1992.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); 神経膠

1993117896



76

アルツハイマー病の神経病理 老人斑アミロイドの神経病理

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

老年精神医学雑誌(0915-6305)3巻7号 Page720-727(1992.07)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学)

チェックタグ : ヒト

1993042519



77

老年期痴呆の症候と経時的变化 特別養護老人ホーム入所者での検討

山内 洋子(群馬大学 神経内科), 山口 晴保, 清水 一, 他

老年精神医学雑誌(0915-6305)3巻5号 Page537-541(1992.05)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 認知症; 老人ホーム

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 特別養護老人ホーム入所者72名を対象に,長谷川式簡易知能評価スケール,Mini-mental state examination,病歴,神経学的所見,簡易運動機能検査などの調査を3年前と今回行い,3年間の変化を検討した.また,新規に痴呆性老人専用特別養護老人ホーム入所者32名を対象に問題行動を加えた調査を行った.3年間において長谷川式スケールの得点は,混合型痴呆および脳血管性痴呆でアルツハイマー型痴呆よりも大きく低下していた.対象者から脳血管障害再発例を除いても同様な傾向がみられた.長谷川式スケールの著しく変化した症例の検討からは,知能評価得点の改善因子として精神的安定が低下因子として脳血管障害の再発,骨折,感染症,環境変化などが考えられた.問題行動はアルツハイマー型痴呆に比較し脳血管性痴呆に高率にみられ,とくに感情失禁が脳血管性痴呆で有意に多く,痴呆型の鑑別にも有用であると考えられた

1993028792



78

群馬大学医学部附属病院における作業療法の現状と問題点の分析 サービスの充実に向けて

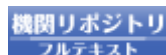
吉川 ひろみ(群馬大学 医技短大), 清水 一, 山口 晴保

群馬大学医療技術短期大学部紀要(0389-7540)11巻 Page121-127(1991.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 作業療法

1992222838



79

知的退行の機能年齢水準への反映

清水 一(群馬大学 医技短大), 吉川 ひろみ, 山口 晴保, 他

作業療法(0289-4920)10巻4号 Page291-299(1991.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 認知症(診断); 日常生活活動; 年齢因子

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 知的退行に伴うADL機能喪失が子供のADL機能獲得の逆順序で起るか否かを調

べるため特別養護老人ホーム入所者全員131名を対象にして長谷川式簡易知的機能評価とADL機能年齢水準の関係について横断的研究を行った.その結果,知的評価とADL機能年齢水準との間に高い相関があり,知的低下の程度に対応して機能的能力の喪失が子供の発達の逆順序で起る可能性が示唆された.知的機能評価に基づいた知的能力4群(正常,境界,準痴呆,痴呆)と機能年齢水準は簡単な直線式で関係を表わせる

1992222643 , DOI : 10.11477/mf.6003900204



80

アルツハイマー病脳老人斑のアミロイド関連成分をβ蛋白免疫感染と同等に明瞭に染めるメセナミン銀染色(英語)

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 羽賀 千恵, 平井 俊策, 他

群馬大学医療技術短期大学部紀要(0389-7540)10巻 Page121-129(1990.03)

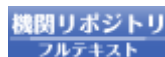
論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); Amyloid Beta Peptides; 染色; Amyloid

チェックタグ : ヒト

Abstract : β-蛋白の免疫染色と同等の染色性をもつ新しいメセナミン銀法を開発した.これはGomoriのメセナミン硝酸銀法とJoneのPAM染色法を改良したものである.本法では老人斑とアミロイドアンギオパチーを選択的に染め出し,毛細血管の基底膜,アミロイド小体,マクrofアージの顆粒,神経細胞の顆粒などは染まらない.これは手技も簡単であるため,老人斑のスクリーニングには最適である

1992142929



81

アルツハイマー病β-蛋白と神経栄養因子 脳β/A4アミロイドーシスの組織病理

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

神経精神薬理(0388-7588)13巻10号 Page753-762(1991.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Amyloid Beta Peptides; 脳疾患(病理学); アミロイドーシス(病理学)

1992122226



82

アルツハイマー型痴呆脳の超微形態

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

Brain Medical(0915-5759)2巻3号 Page33-37(1990.09)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病

1992101651



83

アルツハイマー型痴呆の基礎と臨床 老人斑に関する研究から

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

老年精神医学雑誌(0915-6305)2巻4号 Page465-572(1991.04)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

1992007108



84

老人斑の免疫組織化学

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

神経研究の進歩(0001-8724)34巻3号 Page383-395(1990.06)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); Amyloid

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

1991210006 , DOI : 10.11477/mf.1431900038



85

慢性再発性多発根神経炎(CRPN)再燃時に自己抗体の出現をみた全身性エリテマトーデス(SLE)の1例

外松 明美(群馬大学 神経内科), 田中 真, 山口 晴保, 他

臨床神経学(0009-918X)30巻9号 Page985-988(1990.09)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : エリテマトーデス-全身性; 自己抗体; 多発性神経根障害(慢性)

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44); 女

Abstract : CRPN再燃時に初めて種々の自己抗体の出現をもってSLEが発症した24歳女.再燃後の筋力低下を主体とする臨床症状の増悪は,抗核抗体と髄液蛋白の上昇を伴った.文献的にはまれにSLEがCRPNの臨床症状で発症することは報告されているが,いずれも発病初期から自己抗体は陽性であり,本症例とは異なっていた.本症例は免疫異常の関与が指摘されているCRPNの発症機序の解明に示唆を与える

1991174943



86

神経系と老化 脳アミロイドの発現をめぐって

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

BIO medica6巻1号 Page37-39(1991.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 加齢; 脳疾患; Amyloid

チェックタグ : ヒト

1991152829

87

老人斑のためのPAM改良メセナミン銀法 その手技の確立と染色性

羽賀 千恵(東京都精神医総研), 山口 晴保, 池田 研二, 他
病理と臨床(0287-3745)8巻4号 Page545-549(1990.04)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); 色素異常症(病理学); 染色

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

1991061797



88

老人斑のためのPAM改良法メセナミン銀(MS)法について 抗βタンパク免疫染色法(抗β-P法)との対比

羽賀 千恵(東京都精神医総研), 山口 晴保, 池田 研二, 他
Dementia(0913-6835)3巻4号 Page417-422(1989.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); 染色; Amyloid

チェックタグ : ヒト

Abstract : 老人斑の染色法として,PAM染色を改良したPAM改良法MS法を考案し,抗β-P法と比較検討した.MS法は抗β-P法と同等の染色性を老人斑同定に示し,さらに神経原線維変化も良好に染色でき,脳老年性変化の染色法として有力な染色法であった

1991061787



89

病理フォト(9) 脳の老化とニューロフィラメント・グリアフィラメント

山口 晴保(群馬大学 医技短大)
老年期痴呆(0914-7691)3巻4号 Page1-4(1989.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 加齢; 中間径フィラメント; 脳(生理学)

1990213502



90

病理フォト(Part 8) 老人斑構成成分の免疫組織化学

山口 晴保(群馬大学 医技短大)
老年期痴呆(0914-7691)3巻3号 Page1-4(1989.07)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(生化学,病理学)

1990213501

91

病理フォト(Part 6) Alzheimer神経原線維変化の免疫組織化学

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

老年期痴呆(0914-7691)3巻1号 Page1-4(1989.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); 神経原線維(異常)

1990213498

92

脳アミロイドβタンパク免疫染色の基礎的研究(一) 抗体の特異性,とくにIgGとの交叉反応に関する検討

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 小島 令子, 平井 俊策, 他

Dementia(0913-6835)2巻4号 Page343-350(1988.10)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病; IgG; 脳化学; Amyloid

Abstract : アルツハイマー型痴呆脳に沈着するアミロイドの構成成分βタンパクの抗体を得るための適切な免疫法と抗体の特異性を検討した.合成βペプチドに対する抗血清を異なった免疫方法で作製し抗体価を比較検討すると,最も高い抗体価が得られパラフィン切片でも良好な染色性を示したのはkeyhole limpet hemocyaninに結合し大用量・二回免疫法で得た抗血清であった.抗ヒトIgG血清を対照に抗体価をELISA法で検定すると,抗βタンパク血清はヒトIgGと僅かな反応を示した.パラフィン切片を用いてβタンパク免疫染色とIgG免疫染色を比較したが,染色性は全く異なっていた.IgG免疫染色と異なりβタンパク免疫染色はギ酸前処理で染色性が著しく増強した.抗体価の高い抗βタンパク血清を用いて,ギ酸前処理したパラフィン切片を染める場合には,ヒトIgGとの交叉反応は問題にならない.合成βタンパクに対する抗体は脳アミロイドに特異的に反応し,アルツハイマー神経原線維とは全く反応しなかった

1990213467

93

神経系とアミロイド 老人斑

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

神経内科(0386-9709)31巻6号 Page558-566(1989.12)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); アミロイドーシス

チェックタグ : ヒト

1990213460

94

脳アミロイドβタンパク免疫染色の基礎的研究(二) パラフィン・エポン切片のための固定・前処理条件の設定

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 中里 洋一, 平井 俊策, 他

Dementia(0913-6835)3巻1号 Page77-84(1989.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 染色; 認知症; 脳(生化学,病理学); Amyloid(計測・検査)

Abstract : βタンパクの局在を免疫組織化学的に検討するために必要な種々の条件を検討し,エポン切片での染色条件を明らかにした.βタンパク抗原はパラホルムアルデヒド固定やグルタルアルデヒド固定を行ってもその抗体に対する反応性はあまり変化しないが,グルタルアルデヒド固定はELISA法でback ground activityの上昇を,凍結切片の染色で非特異染色を引き起こした.凍結切片では,びまん性老人斑やアミロイドが鋭敏に検出された.パラフィン切片では反応性が著しく低下したが,70%以上のギ酸で5分間前処理すると凍結切片と同等の染色性が得られた.グルタルアルデヒド固定・パラフィン切片の場合は,ギ酸前処理により非特異反応のない良好な像が得られた.エポン包埋光顕用切片(1 μm)では,オスミウム後固定を行っていない場合は,脱エポン処理とギ酸前処理により明瞭な染色性が得られた.しかし,オスミウム後固定がなされている場合は,脱エポン後に脱オスミウム処理を行い,さらにギ酸前処理後,正常ヤギ血清で十分にblockingを行って初めて明瞭なβタンパク免疫染色が可能となった

1990159986



95

Alzheimer型痴呆の老人斑の嗜銀性はギ酸前処理により消失する(英語)

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 平井 俊策, 中里 洋一

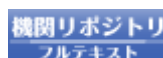
群馬大学医療技術短期大学部紀要(0389-7540)9巻 Page181-186(1989.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(合併症); Formates(治療的利用); 色素異常症(薬物療法)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

1990121821



96

病理フォト 瀰漫性老人斑の免疫組織化学

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

老年期痴呆(0914-7691)3巻2号 Page1-4(1989.04)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); Down症候群; Amyloid

チェックタグ : ヒト

1990103941



97

脳アミロイドβ蛋白を指標とした老人斑形成の最初期像

山口 晴保(群馬大学 医技短大)

実験医学(0288-5514)7巻11号 Page1308-1310(1989.08)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 脳化学; Amyloid

1990103927



98

老人性脳アミロイドにおけるα1-アンチキモトリプシン(α1ACT)の免疫細胞化学的検討

東海林 幹夫(群馬大学 神経内科), 針谷 康夫, 山口 晴保, 他

臨床神経学(0009-918X)29巻1号 Page30-39(1989.01)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(生化学,病理学); Amyloid; Alpha 1-Antichymotrypsin

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : アルツハイマー型老年痴呆(SDAT) 5例における老人斑アミロイドとα1ACTとの関係を検討した.正常ヒト大脳では神経細胞と神経膠細胞の一部が染色されたが,分布と形態に特徴はなかった.SDAT大脳では典型的老人斑の芯と辺縁,原始老人斑,core plaque,大小様々な形態の脳アミロイド沈着が染色された.α1ACTとβ proteinの抗血清を用いた2重染色による組織定量的検討では,β protein陽性の老人斑の約98%にα1ACT様免疫活性がみとめられた.脳血管アミロイドとeosinophilic extracellular tangleにもα1ACTIが陽性であったが,神経原線維変化,顆粒空胞変性は陰性であった.平野小体と家族性アミロイドポリニューロパチーおよび原発性アミロイドーシス(AL型)では弱い反応がみられた

1989219425



99

日本語版Mini-Mental State Examinationと長谷川式簡易痴呆診査スケールの比較研究 特別養護老人ホーム入所者での検討

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 清水 一, 吉川 ひろみ, 他

老年期痴呆(0914-7691)2巻3号 Page75-79(1988.07)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 精神医学的評価尺度; 認知症(診断)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 特別養護老人ホーム入所者102名を対象に,長谷川式簡易痴呆診査スケール(Hスケール)とMini-Mental State Examination (MMSE)を施行した.両テスト間の相関は,Pearson積率相関係数 $r=0.932$ ($p<0.01$),Spearmanの順位相関係数 $r_s=0.99$ ($p<0.01$)で,いずれも高い相関を示した.変性型・血管性・混合型痴呆群とも両テスト間に有意の相関を示した

1989157959



合成β peptide(1-28)に対する抗血清による免疫細胞化学的検討

東海林 幹夫(群馬大学 神経内科), 針谷 康夫, 山口 晴保, 他
神経内科(0386-9709)29巻5号 Page517-522(1988.11)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(生化学); 免疫血清

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 合成β peptide (1-28)に対する抗血清を作製し,免疫細胞化学的検討を行った.1)老人斑アミロイドと脳血管アミロイドが染色された.2) β-proteinの免疫細胞化学的検討では,凍結切片と蟻酸処理パラフィン切片が優れていた.3)凍結切片による検討でもβ protein前駆物質の検出はできなかった.4)アルツハイマー型老年痴呆の脳には老人斑以外にも細顆粒状・線維状のさまざまな形態を示す脳アミロイドの沈着が広汎に認められた
1989146334



101

Alzheimer型老年痴呆:β proteinの局在に関する基礎的研究

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 今井 基次, 平井 俊策

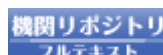
群馬大学医療技術短期大学部紀要(0389-7540)8巻 Page59-63(1988.02)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(生化学); タンパク質; Amyloid

Abstract : Alzheimer型老年痴呆(SDAT)脳に沈着するamyloidの構成成分として注目されているβ proteinの局在を免疫組織化学的に検討した.合成β proteinに対する抗体はSDAT脳amyloidに特異的に反応し,原発性amyloidosisや家族性amyloid polyneuropathyのamyloidとは反応しなかった.また,正常ヒトおよびラット諸臓器にも反応はみられなかった.SDAT脳ではβ proteinは老人斑およびamyloid angiopathyに局在していた.典型的老人斑のみでなく,腫大神経突起を伴わない幼弱な原始老人斑にもβ proteinの反応がみられ,老人斑形成の一次要因としてamyloid沈着の重要性を指摘した

1989074090



102

β protein染色と3種の鍍銀染色法による老人斑の染色性に関する定量的検討

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 平井 俊策, 森松 光紀, 他

臨床神経学(0009-918X)28巻6号 Page688-694(1988.06)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : Alzheimer病(計測・検査); 染色

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 5例のAlzheimer型老年痴呆剖検脳海馬領域の連続切片を用い,Bielschowsky染色(平野法),PAM染色,Bodian染色,β protein免疫染色による老人斑検出率を比較した.海馬旁回では平野法に対しPAM染色(108%)・β protein染色(106%)共ほぼ同等の検出率であったが,Bodian染色では平均34%(8~68%)と低値を示した.SubiculumではBodian染色でも84%の老人斑が検出された.β protein染色では全ての型の老人斑が染色された.Bodian染色で検出されない原始(非定型)老人斑もβ protein染色でamyloid沈着が証明され,老人斑形

成の一次要因としてamyloid沈着が重要であることを明らかにした
1989062522



103

孤発性の筋萎縮性側索硬化症におけるClarke核の病理学的検討

岡本 幸市(群馬大学 神経内科), 山崎 恒夫, 山口 晴保, 他
臨床神経学(0009-918X)28巻5号 Page536-542(1988.05)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 筋萎縮性側索硬化症(病理学)

チェックタグ : ヒト

Abstract : 孤発性の筋萎縮性側索硬化症(ALS) 16例中13例のClarke核内にspheroidsやgrobulesのほか,棍棒状に腫大した神経突起が認められた.非ALS例では,脳血管障害,脊髄小脳変性症や脊髄に病変を有する症例などで嗜銀球が観察された.少数ではあるが,ALSのClarke核内にneuronophagia (3例)やBunina小体によく似た神経細胞質内封入体が4例に認められた.電顕的観察では,ALS例のClarke核の神経細胞およびその突起内にBunina小体と酷似した封入体のほか,神経細胞質内にintramitochondrial inclusionやneurofilamentの増加がみられた

1989062511



104

血清・髄液中におけるβ-protein前駆物質の検討

針谷 康夫(群馬大学 神経内科), 東海林 幹夫, 山口 晴保, 他
医学のあゆみ(0039-2359)145巻6号 Page459-460(1988.05)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 血液化学分析; タンパク質; 脳疾患(生化学); 髄液

1989056205



105

Adult polyglucosan body diseaseと考えられる1例

岡本 幸市(群馬大学 神経内科), 近藤 進, 山口 晴保, 他
神経内科(0386-9709)28巻3号 Page317-319(1988.03)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 軸索(異常)

医中誌フリーキーワード : Glucosan

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44); 男

Abstract : 41歳男,臨床病状および腓腹神経生検よりadult polyglucosan body diseaseと考えられた

1989008519



Choline acetyltransferaseおよびsomatostatinの免疫細胞化学的検討

東海林 幹夫(群馬大学 神経内科), 針谷 康夫, 山口 晴保, 他
 神経内科(0386-9709)28巻3号 Page260-271(1988.03)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Choline O-Acetyltransferase(生化学,脳脊髄液); Somatostatin(生化学,脳脊髄液)

チェックタグ : マウス; 動物

Abstract : マウスの脳脊髄を用いてChATおよびSSの局在および両者の相互関係について免疫細胞化学的検索を行った.1) ChATI陽性細胞は前脳底部,線条体,橋背側被蓋核,脳幹脊髄運動神経核などに限局した分布を示す大型神経細胞で,大脳皮質や海馬などへ広汎な投射線維を持っていた.2) SSI陽性細胞は大脳皮質ばかりではなく,基底核や無名質および扁桃体などの皮質下構造にも小型の内在性神経細胞および投射神経細胞として広く認められた.3) ChATとSSの同一神経細胞内共存は認められなかった.4) Choline神経系とSS神経系とはマウスの中枢神経において異なる系を形成していた

1989008481

**脊髄性四肢麻痺を呈したサルコイドーシスの1例**

山口 晴保(群馬大学 神経内科), 針谷 康夫, 岡本 幸市, 他
 内科(0022-1961)61巻3号 Page545-547(1988.03)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 四肢麻痺; サルコイドーシス(異常)

チェックタグ : ヒト; 中年(45~64); 女

1988187199

**Alzheimer型老年痴呆に特徴的な星型gliaにとり込まれたAlzheimer神経原線維変化の末期像**

山口 晴保(群馬大学 医短大), 森松 光紀, 平井 俊策
 神経内科(0386-9709)26巻6号 Page593-594(1987.06)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); 神経原線維

チェックタグ : ヒト

Abstract : 対象の48例を生前の知的レベルから,1)正常群12例,2)痴呆群37例(VD 13例,MID 9例,SDAT 15例),3)不詳群7例の3群に分けた.老人脳海馬領域に出現するglial fibrillary acidic protein陽性のAlzheimer神経原線維変化末期像が,総neurofibrillary tangle数の多い症例に出現し,Alzheimer型老年痴呆や混合型痴呆に特徴的な所見であり,組織学的診断に有用である

1988108533



109

副甲状腺機能低下症にみられる低カルシウム血症性ミオパチー:ミオグロビン流出の免疫組織化学的証明(英語)

山口 晴保(群馬大学 医技短大), 岡本 幸市, 東海林 幹夫, 他

群馬大学医療技術短期大学部紀要(0389-7540)7巻 Page223-230(1987.02)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Myoglobin; 筋疾患(合併症); 副甲状腺機能低下症(合併症); 低カルシウム血症(合併症)

チェックタグ : ヒト

1988085395



110

左半側空間無視,着衣失行を主徴とし,運動麻痺を伴わない脳梗塞の一例

山口 晴保(群馬大学 神経内科), 平井 俊策, 安藤 与志子, 他

群馬医学(0285-0656)45号 Page79-82(1987.07)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 失行症; 脳梗塞(合併症)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~); 男

1988085269



111

Alzheimer型老年痴呆 老人斑の種類と痴呆発現の相関について

山口 晴保(群馬大学 神経内科), 森松 光紀, 岡本 幸市, 他

臨床神経学(0009-918X)27巻5号 Page617-621(1987.05)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

Abstract : 老人剖検脳海馬領域に老人斑が100/切片以上出現した20例を対象とした. 鍍銀染色(Bielschowsky平野変法)で海馬旁回-内側後頭側頭回に出現する老人斑を典型的および原始老人斑に分けて算定し,対象を典型的老人斑優位群(7例)と原始老人斑優位群(13例)に分けた. 痴呆の程度は原始老人斑優位群で有意に強かった. 非痴呆群の3例はすべて典型的老人斑優位群に属し, Alzheimer型老年痴呆は9例中8例が原始老人斑優位群に属した. また, 原始老人斑優位群はsubiculumに多数の原始老人斑を伴っていた. 痴呆の発現には典型的老人斑の15倍におよぶ多数の原始老人斑がsubiculumを含めて出現することが重要である

1988075910



112

各種神経疾患に伴う起立性低血圧に対するTS-701の使用経験 脊髄小脳変性症を中心に

平井 俊策(群馬大学 神経内科), 針谷 康夫, 山口 晴保

Progress in Medicine(0287-3648)7巻2号 Page337-345(1987.02)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Midodrine; 脊髄小脳変性症(薬物療法)

1988063024



113

MRI(磁気共鳴画像診断法)により病巣を明らかにし得たoculo-palato-skeletal myoclonusの1例

近藤 進(群馬大学 神経内科), 村松 慎一, 山口 晴保, 他

脳卒中(0912-0726)8巻5号 Page412-416(1986.10)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 磁気共鳴スペクトロスコピー; ミオクローヌス(病理学,放射線核種診断)

チェックタグ : ヒト; 中年(45~64); 男

1987127982 , DOI : 10.3995/jstroke.8.412



114

延髄背内側部梗塞のMRI

山口 晴保(群馬大学 神経内科), 酒井 保治郎, 平井 俊策, 他

神経内科(0386-9709)24巻6号 Page623-624(1986.06)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 脳梗塞(放射線核種診断)

チェックタグ : ヒト; 中年(45~64); 男

1987085772



115

〔老年者の退行性神経疾患(1)〕 脳老化の形態学的特徴

森松 光紀(群馬大学 神経内科), 岡本 幸市, 山口 晴保

Geriatric Medicine(0387-1088)24巻6号 Page624-632(1986.06)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 加齢; 脳疾患

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~)

1987023480



116

抗ヒトneurofilament抗体のパラフィン切片への応用に関する基礎的研究

山口 晴保(群馬大学), 平井 俊策, 田中 真

神経病理学(0286-3626)5巻3号 Page377-384(1984.12)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 線条体(抗原・抗体・補体,病理学)

Abstract : ヒト末梢神経組織よりneurofilament (NF)の3成分(68 K, 160 K,200 K)を抽出してウサギに免疫して得られた抗血清を用いて検討した.組織切片中のNF抗原は未固定凍結切片に最も多く含まれ,エタノール固定パラフィン切片,ホルマリン固定パラフィン切片の順に減少したが,その染色パターンは同一であった.いずれの抗血清も主として軸索を染色したが,神経細胞体や樹状突起は染色されないなど,特異性が明らかであった

1986161859



117

Hypocalcemic myopathyを伴った特発性副甲状腺機能低下症の1例

山口 晴保(群馬大学), 岡本 幸市, 東海林 幹夫

臨床神経学(0009-918X)25巻10号 Page1168-1175(1985.10)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : Calcium(代謝性障害); 筋疾患; 副甲状腺機能低下症

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~); 女

Abstract : 65歳女.テタニー,低Ca血症(5.0 mg/dl),白内障,大脳基底核石灰化像,Ellsworth-Howard試験陽性などより原発性副甲状腺機能低下症と診断した.喉頭筋と四肢近位筋優位の筋脱力・易疲労感があり,CPKが上昇していたが,Ca剤とV.D剤投与にて軽快し,hypocalcemic myopathyと診断した.生検筋の光顕・電顕所見はtype 2 fiber atrophyなどの非特異変化のみであったが,酵素抗体法によるミオグロビン染色を行うと,萎縮筋線維の染色性が低下ないし消失していた.この他,本例では甲状腺腺腫を合併していた点,低Caに比して脳波異常が軽度であった点,心不全による心嚢液貯留がみられた点などが特徴的であった

1986158092



118

脳卒中後の麻痺肢浮腫に対するエスベリベン(R)の効果

森松 光紀(群馬大学), 山口 晴保, 田中 真

Geriatric Medicine(0387-1088)23巻8号 Page1437-1447(1985.08)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : 浮腫(薬物療法); 脳血管障害(異常); 片麻痺; シナガワハギ属(治療的利用)

1986132328



119

紫外線照射により培養皮膚線維芽細胞にコロニー形成能の低下を認めたCockayne症候群の1異常例

東海林 幹夫(群馬大学 神経内科), 石川 治, 山口 晴保

臨床神経学(0009-918X)25巻2号 Page141-146(1985.02)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : Cockayne症候群(家族性・遺伝性); 紫外線; 線維芽細胞(放射線影響); 皮膚

チェックタグ : ヒト; 青年期(13~18); 男

Abstract : 16歳男.悪液質性小人症,知能低下,老人様顔貌,小脳性失調,骨奇形,日光過敏症など典型的な症状の他に,1)網膜色素変性を欠き,聴力障害も軽く,全体の障害程度も軽度で,特徴的な顔貌が遅れて出現した.2)高度な脊椎側彎.3)頭部CT像では大脳基底核の石灰化はなく,大脳白質に不規則な低吸収を認めた.4)日光過敏症が成長とともに軽くなり,皮膚紫外線照射試験は陰性で,培養皮膚線維芽細胞の紫外線照射試験で陽性となったなどの特徴を示した

1985197293



120

汎発性Lewy小体病の1剖検例

岡本 幸市(群馬大学 神経内科), 山崎 恒夫, 山口 晴保

臨床神経学(0009-918X)24巻10号 Page975-983(1984.10)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : Lewy小体(異常)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~); 男

Abstract : 78歳頃発症し,臨床的に進行性の痴呆,筋固縮,前頭葉症状,屈曲性対麻痺等を主症状とし,振戦はなく約5年の経過で死亡した.神経病理学的には多数のLewy小体が大脳皮質,間脳,脳幹に認められ,同時に老人性変化もみられた.Lewy小体の一部は免疫組織学的に抗neurofilament抗体で陽性反応を示し,電顕的には大脳皮質のLewy小体を構成する中心部の細線維の直径は,軸索内のneurofilamentと酷似していたことより,Lewy小体とneurofilamentとの強い関連性が示唆された.Meynert核の神経細胞の減少が著明であり,視床にはいわゆるthalamic inclusionが多数みられ,さらに大脳皮質の小血管の一部に軽度のamyloid angiopathyの所見も認められた

1985132863



121

Olivary hypertrophyの病理学的研究 初期および基本的病理所見について

岡本 幸市(群馬大学 神経内科), 山口 晴保, 平井 俊策

臨床神経学(0009-918X)24巻11号 Page1173-1180(1984.11)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : オリーブ核(異常)

Abstract : 橋,小脳病変によりtranssynaptic degenerationを示した5例(発症~死亡:6日~1年3ヵ月)の下オリーブ核を光顕的,電顕的に観察した.早期病変としては神経細胞のcentral chromatolysis様の腫大とneurofilamentの増加がみられた.慢性例ではしばしば数μ大に至るエオジン好性小顆粒がみられた.電顕的には,全例において腫大した神経細胞の粗面小胞体の中にelectron dense granulesが多数みられたが,対照群には見出せなかった.dentato-olivary pathwayの傷害による下オリーブ核の変化では,下オリーブ核への入力

の障害によってひきおこされた神経細胞内での「蛋白合成・移送過程の障害」が基本的病変であり,肥大型astrogliaの反応は二次的なものと考えられた

1985121443



122

筋原性筋萎縮を伴ったMarinesco-Sjoegren症候群の1例 とくに下肢筋萎縮についての考察

東海林 幹夫(群馬大学 神経内科), 山口 晴保, 岡本 幸市
神経内科(0386-9709)21巻1号 Page57-63(1984.07)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 下肢筋; 筋萎縮症(合併症); 脊髓小脳変性症(合併症)

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44); 男

Abstract : 30歳男,下肢に著明な筋萎縮を伴う本症候群.筋萎縮に対して筋電図,筋生検などを行い,著明な筋原性変化を認めた

1985087731



123

One-and-a half症候群,上方注視麻痺,運動失調,左片麻痺を示したGroenblad-Strandberg症候群の1症例

井上 敏克(群馬大学 神経内科), 山口 晴保, 岡本 幸市
神経内科(0386-9709)18巻4号 Page353-359(1983.04)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 運動失調症; 弾力線維性仮性黄色腫; 眼筋麻痺; 片麻痺

チェックタグ : ヒト; 中年(45~64); 女

Abstract : 52歳女,反復する脳血管障害と椎骨脳底動脈領域の障害による中枢神経症状を示した本症候群

1984145947



124

砂時計状頸髄神経鞘腫

田中 真(群馬大学 神経内科), 酒井 保次郎, 山口 晴保
神経内科(0386-9709)18巻4号 Page412-414(1983.04)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : 神経鞘腫; 脊髓(異常); 脊髓腫瘍

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44); 女

1984120688



125

頸静脈孔症候群ならびにその近縁症候群の臨床研究 自験7例の報告と本邦報告例の文献的考察

田中 真(群馬大学 神経内科), 山口 晴保, 小松 美鳥
神経内科(0386-9709)18巻1号 Page17-25(1983.01)

論文種類 : 原著論文/症例報告

医中誌フリーキーワード : 頸静脈孔症候群

チェックタグ : ヒト

Abstract : Vernet症候群, Collet-Sicard症候群およびVillaret症候群の7例を報告した. Vernet症候群と他の症候群との間に, 病因・予後の上で差がある
1983231323



126

グリア蛋白反応に陽性所見を示すAlzheimer神経原線維変化について

山口 晴保(群馬大学 神経内科), 平井 俊策, 森松 光紀
神経内科(0386-9709)17巻5号 Page496-499(1982.11)

論文種類 : 原著論文

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); 神経原線維(性状・分布); 神経膠(生化学); タンパク質

チェックタグ : ヒト

Abstract : グリア線維の構成蛋白であるglial fibrillary acidic proteinと, 主としてグリアに存在する神経特異蛋白であるS-100蛋白を星形グリアのマーカーとして活用し, 老人剖検脳45例の海馬領域におけるこれらの抗原の局在をperoxidase anti-peroxidase法により検索した. 末期像を示す原線維変化は, これらのグリア蛋白の反応に陽性所見を示した
1983230436



127

Myoclonusを伴わないAdult type sialidosis with partial β -galactosidase deficiencyの1症例

山口 晴保(群馬大学 神経内科), 岡本 幸市, 東海林 幹夫
臨床神経学(0009-918X)23巻1号 Page1-8(1983.01)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : Beta-Galactosidase(欠損・欠乏); Sialic Acids(代謝性障害)

医中誌フリーキーワード : ガラクトシダーゼ欠損症

チェックタグ : ヒト; 成人(19~44); 男

Abstract : 44歳男. 電顕観察により, 種々の神経細胞の細胞質内封入体の他, リンパ球, Schwann細胞, 外套細胞, 線維芽細胞, 血管内皮の空胞化を認めた. 33歳で発症し, 経過も非常に緩慢で, 運動失調は軽微で, しかもmyoclonusや痙攣発作を伴わなかった点が特異であった
1983171902



エオジン好性を示すAlzheimer神経原線維変化 とくにその電顕像について

岡本 幸市(群馬大学 神経内科), 平野 朝雄, 山口 晴保

臨床神経学(0009-918X)22巻9号 Page840-846(1982.09)

論文種類 : 原著論文/症例報告

シソーラス用語 : Alzheimer病(病理学); 神経原線維(異常)

チェックタグ : ヒト; 高齢者(65~); 男; 女

Abstract : 3例(74歳女,74歳男,81歳女)のAlzheimer型老年痴呆の剖検例で,エオジン好性を示す神経原線維変化(NFT)を光顕的,電顕的に観察した.エオジン好性のNFTはGFAP染色で陽性の他,PTAH, Holzer染色でも陽性の細線維がこれらのNFT内に認められた.電顕的にこれらのNFTに対応する構造物は,細胞膜や細胞内小器官がほとんど消失しており,主として直径約15 nmのstraight tubulesの線維束の集団よりなり,その間に電子密度の高い線維束が混在していた.後者は,細胞膜によって前者と境されており,星膠細胞の突起の特徴を有していた.以上より,古いNFTを示す神経細胞が死滅する結果,残存したneurofibrillary tanglesの間に星膠細胞の突起が種々の程度に入り込むようになるものと考えられる

1983070347

**Balint症候群を主徴としneoplasticangioendotheliosis類似の臨床ならびに病理像を呈した悪性リンパ腫の1剖検例**

田中真 (群大リハ研神経内科), 山口晴保, 内山俊正, 他

臨床神経学(0009-918X)22巻6号 Page507-513(1982.06)

論文種類 : 原著論文

1982207760<Old 医中誌>

**Oligodendrocytes,ミエリン鞘そして脈絡叢におけるガラクトセレブロシドの分布(英語)**

内田勉 (東大医科研癌細胞), 高橋聖之, 山口晴保, 他

The Japanese Journal of Experimental Medicine(0021-5031)51巻1号 Page29-35(1981.02)

論文種類 : 原著論文

1982178176<Old 医中誌>

**免疫異常を伴わないataxiatangiectasiaの1例**

岡本幸市 (群大神経内科), 山口晴保, 井上敏克, 他

臨床神経学(0009-918X)21巻6号 Page498-505(1981.06)

論文種類 : 原著論文

1982022884<Old 医中誌>

132

神経特異S-100蛋白,GFA蛋白のラット神経組織,ヒト脳腫瘍組織内局在に関する免疫

山口晴保 (群大第一病理)

脳と神経(0006-8969)32巻10号 Page1055-1064(1980.10)

論文種類 : 原著論文

1981164608<Old 医中誌> , DOI : 10.11477/mf.1406204658